

大阪遊覽案内
 四近名勝

125

アサヒビール

淡 清

泊 冽

大阪麥酒株式會社

電話 東二六一 特東四五六

販賣部 大阪高麗橋二丁目

025251-000-3

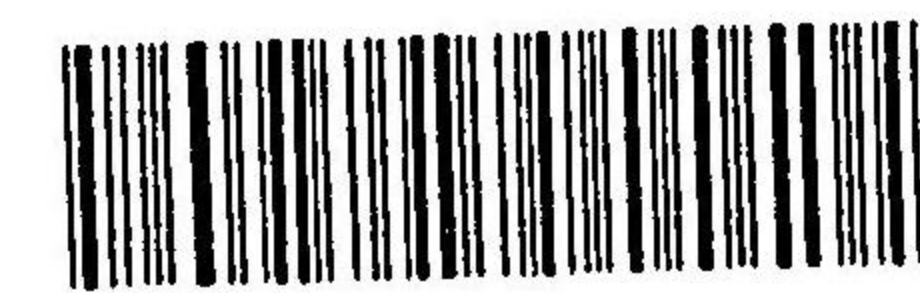
特61-219

大阪遊覽案内 附, 四近名勝

的場 銚之助 / 著

M35

ADC-2660



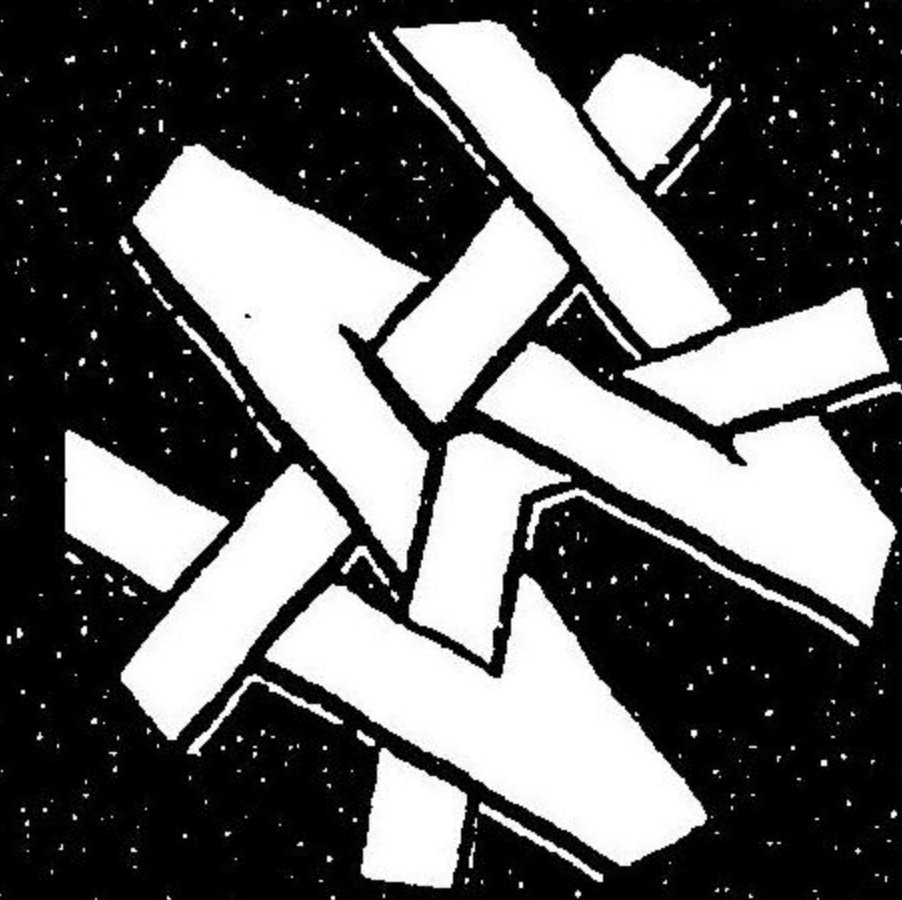
小西和三郎本店

商號

小西羅紗店

電話特千六百一十一番

大阪伏見町四丁目



商號

小西和支店

電話特東千八百七十一番

大阪平野町四丁目

いほはへち

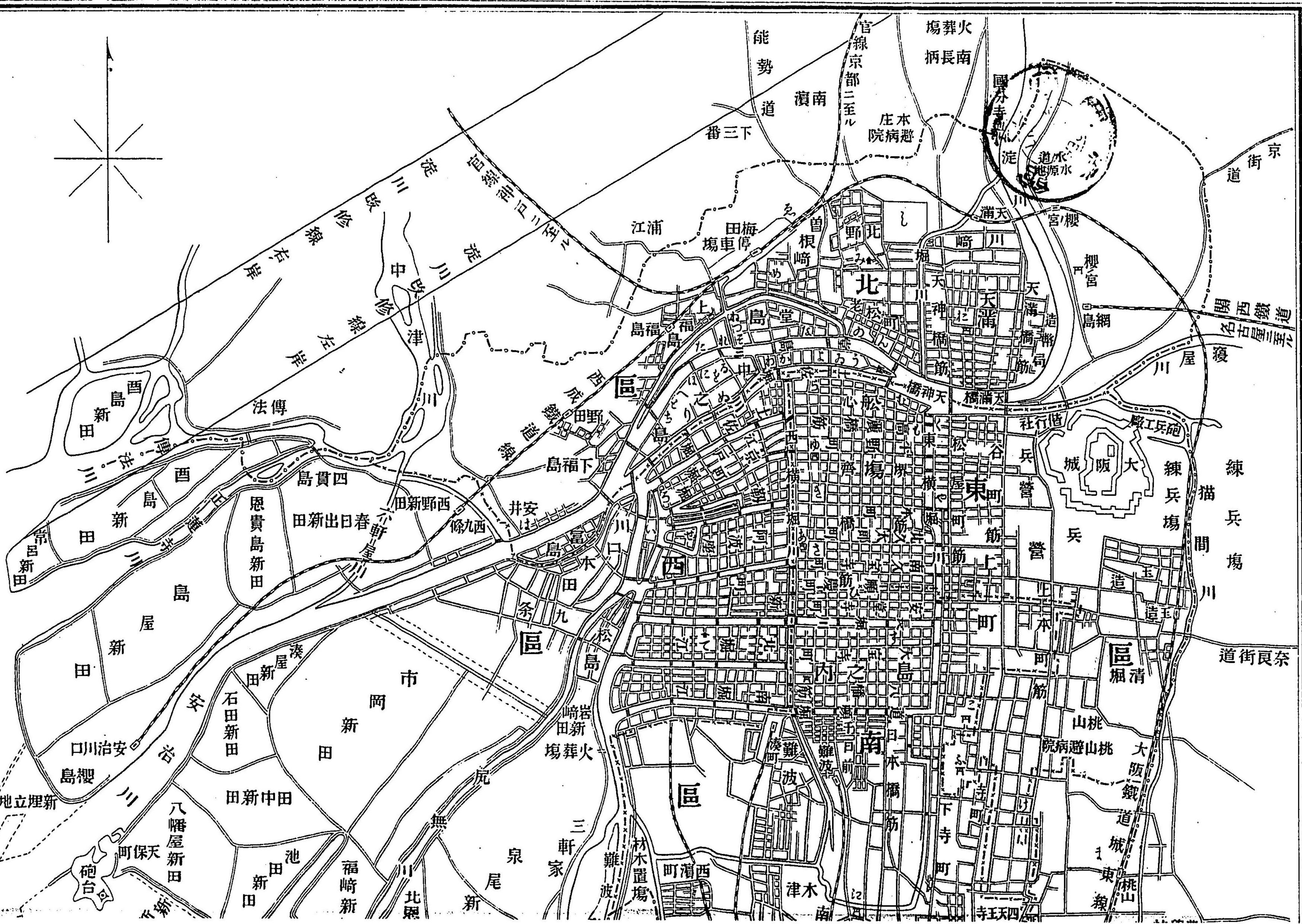
大阪府廳
喉察署
水警署
師範學校
工業學校
商船學校
製紙會社
製銅會社

たむらうのく

堂島米穀取引所
毎日新聞社
株式取引所
豐國神社
明治紀念碑
控訴院
天滿神社
大阪府里程元標

みよゑひもせすん

大融寺
監獄署
凌雲閣
憲兵本部
東區役所
西區役所
南區役所
北區役所

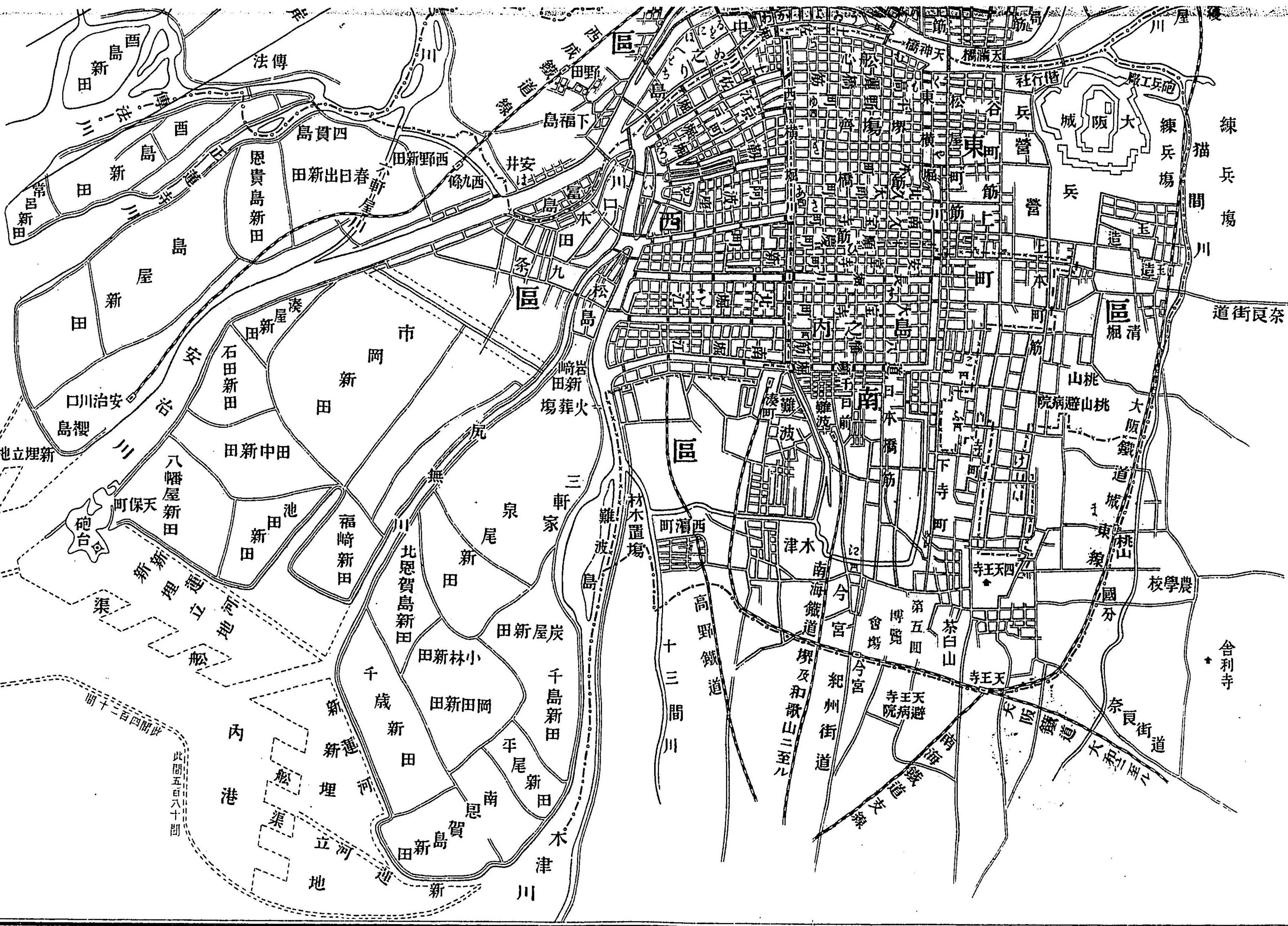


此圖四千四百

取引所
監獄署
憲兵隊
東區
西區
南區
北區

大融寺
監獄署
憲兵隊
東區
西區
南區
北區

大融寺
監獄署
憲兵隊
東區
西區
南區
北區



北
九百四千間此

外
三万七百萬面

間五十五百八千間此
突南

此間五百八十間

此間二百四十間

此間五百八十間

いほにへちぬりぬるわよたれつ

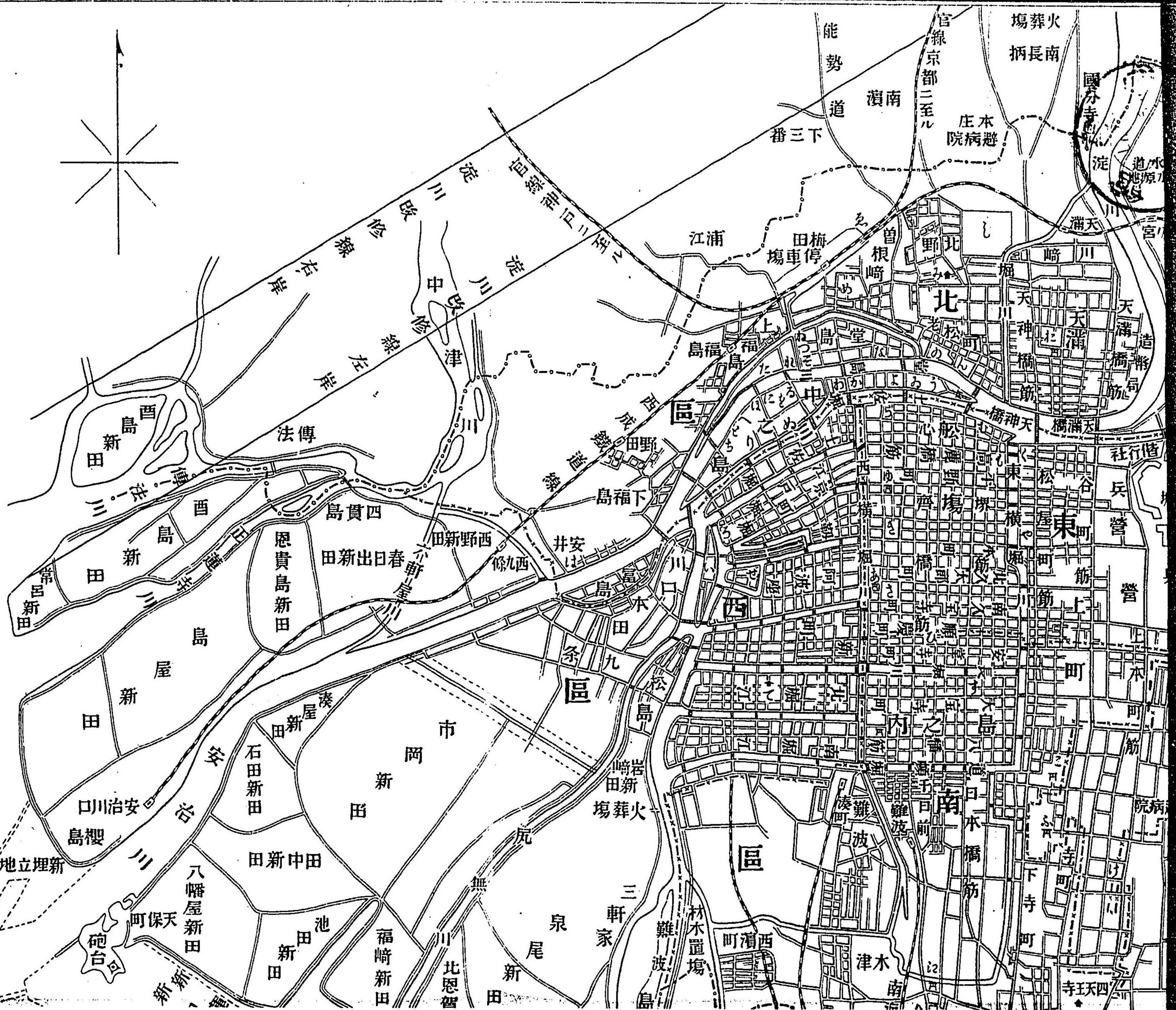
大阪府廳
 雑警署
 水上警察署
 師範學校
 工業學校
 商船學校
 製銅會社
 製紙會社
 電燈會社
 稅務管理局
 醫學學校
 高等女學校
 朝日新聞社
 郵便電信局
 日本銀行支店
 第一中學校
 商業會議所
 商業會所
 大阪測候所
 商業學校

たむうのおのくやくまけふこにあさゆめ

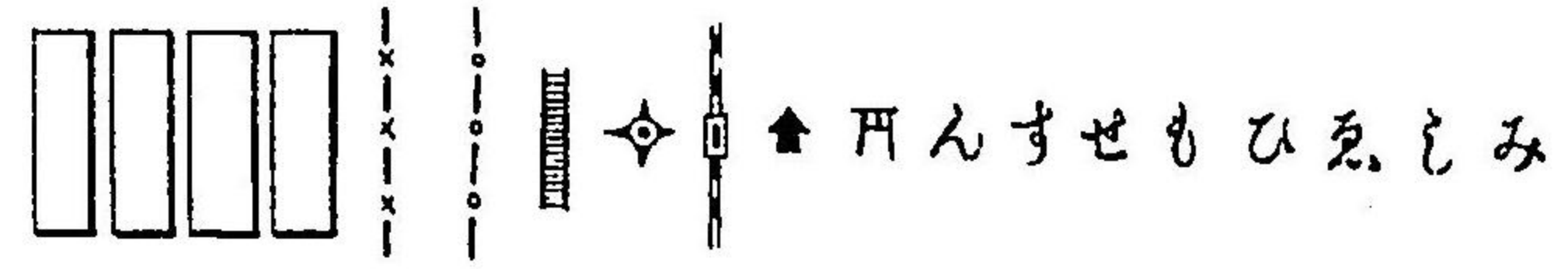
堂島米穀取引所
 毎日新聞社
 株式取引所
 豐國神社
 明治紀念碑
 控訴院地方裁判所
 天滿神社
 大阪府里程元標
 大阪博物館
 女子師範學校
 第五中學校
 生國魂神社
 高津神社
 今宮神社
 阿彌陀池
 難波別院
 津村別院
 御靈神社
 曾根崎警察署

北南西東區市橋燈停寺神北南西東憲凌監大
 郡 車 區區區區兵雲獄融
 區區區區界界 台場 社所所所部閣署寺

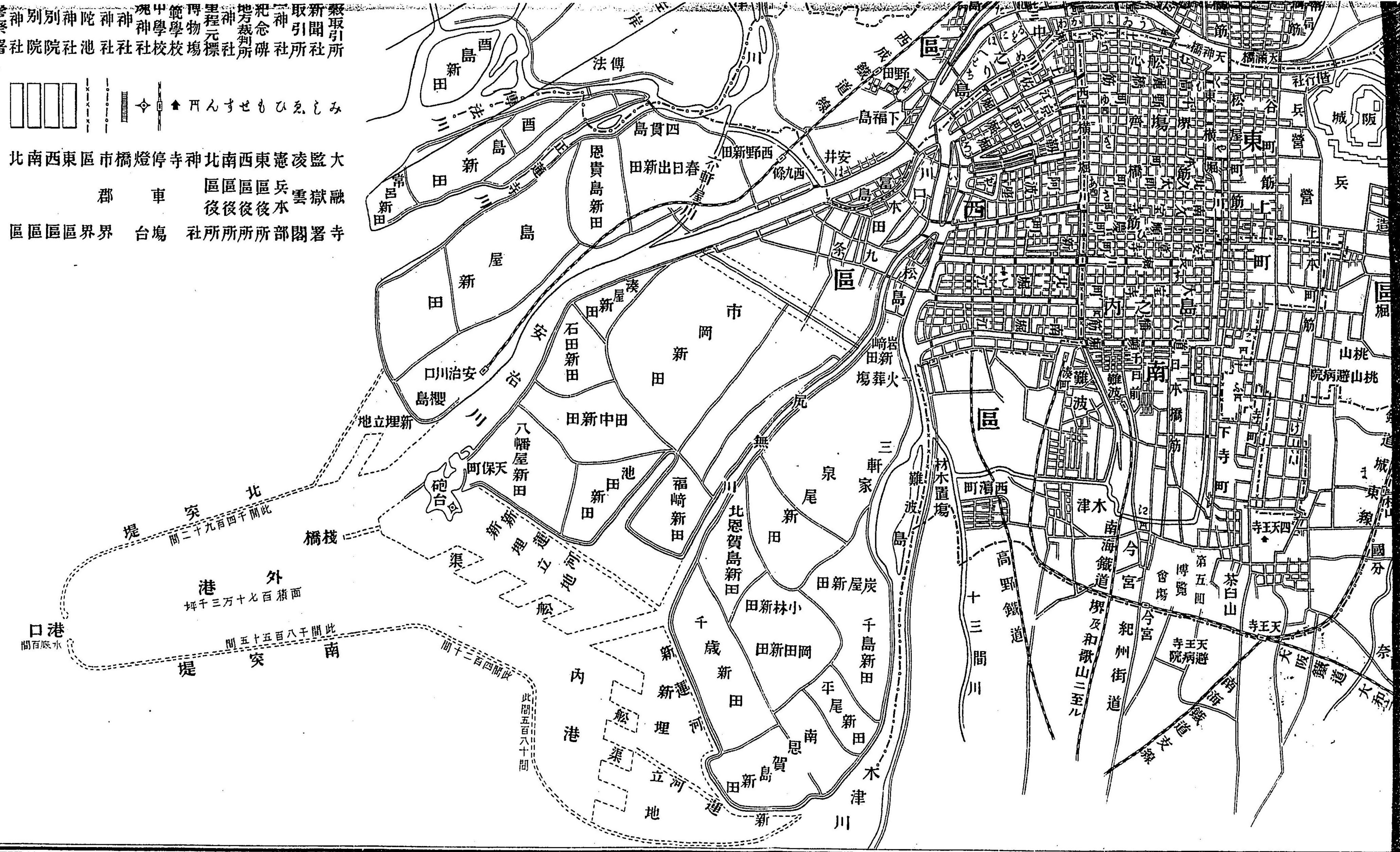
北南西東區市橋燈停寺神北南西東憲凌監大
 郡 車 區區區區兵雲獄融
 區區區區界界 台場 社所所所部閣署寺



警察署 別院 別院 神池社 神池社 魂神校 中學校 鏡物校 博學場 里元標 神方社 紀念碑 取引所 新引所 聚取所

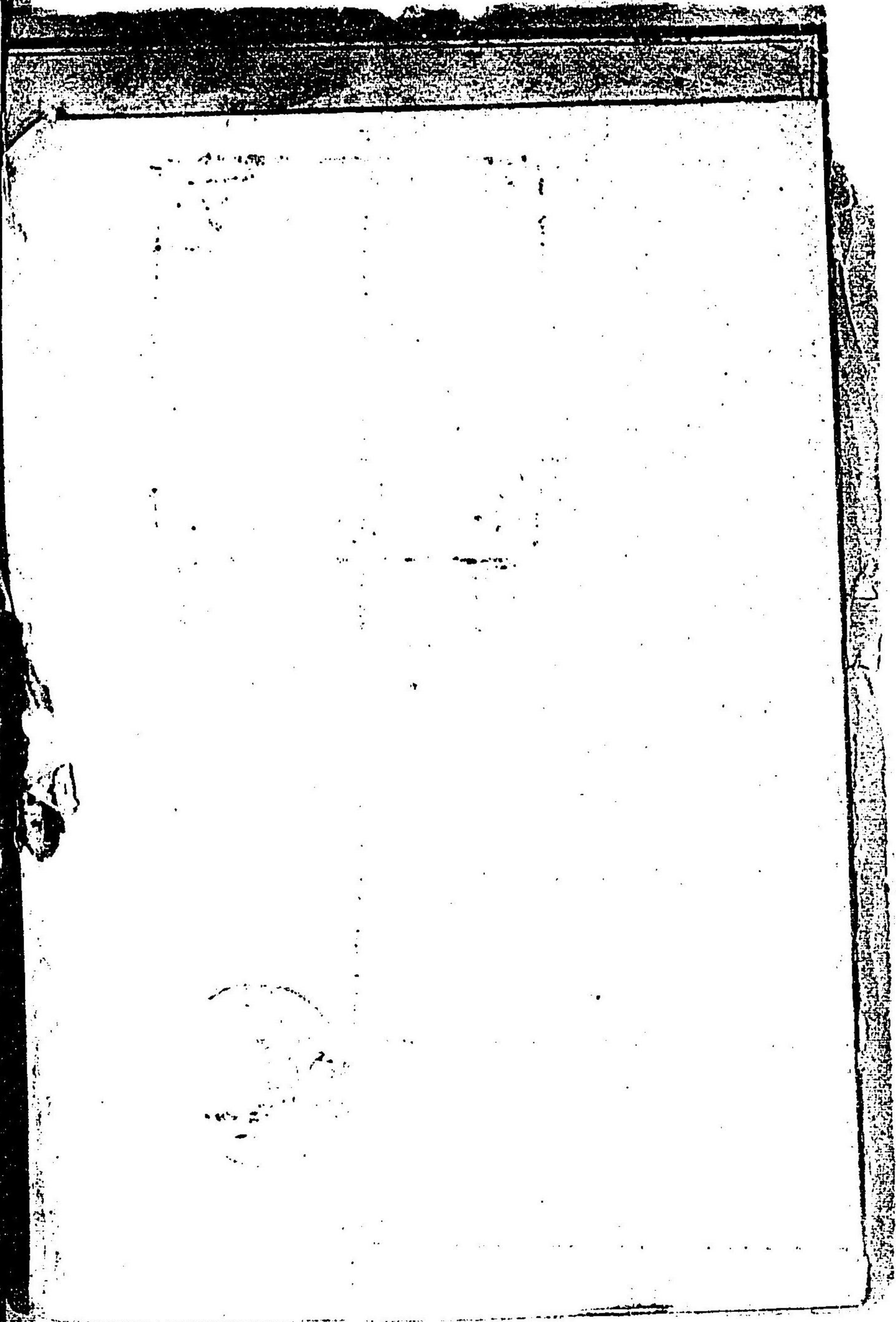


北南西東區市橋燈停寺神北南西東憲凌監大
 郡 車 區區區區兵雲獄融
 區區區區界界 台場 社所所所部閣署寺



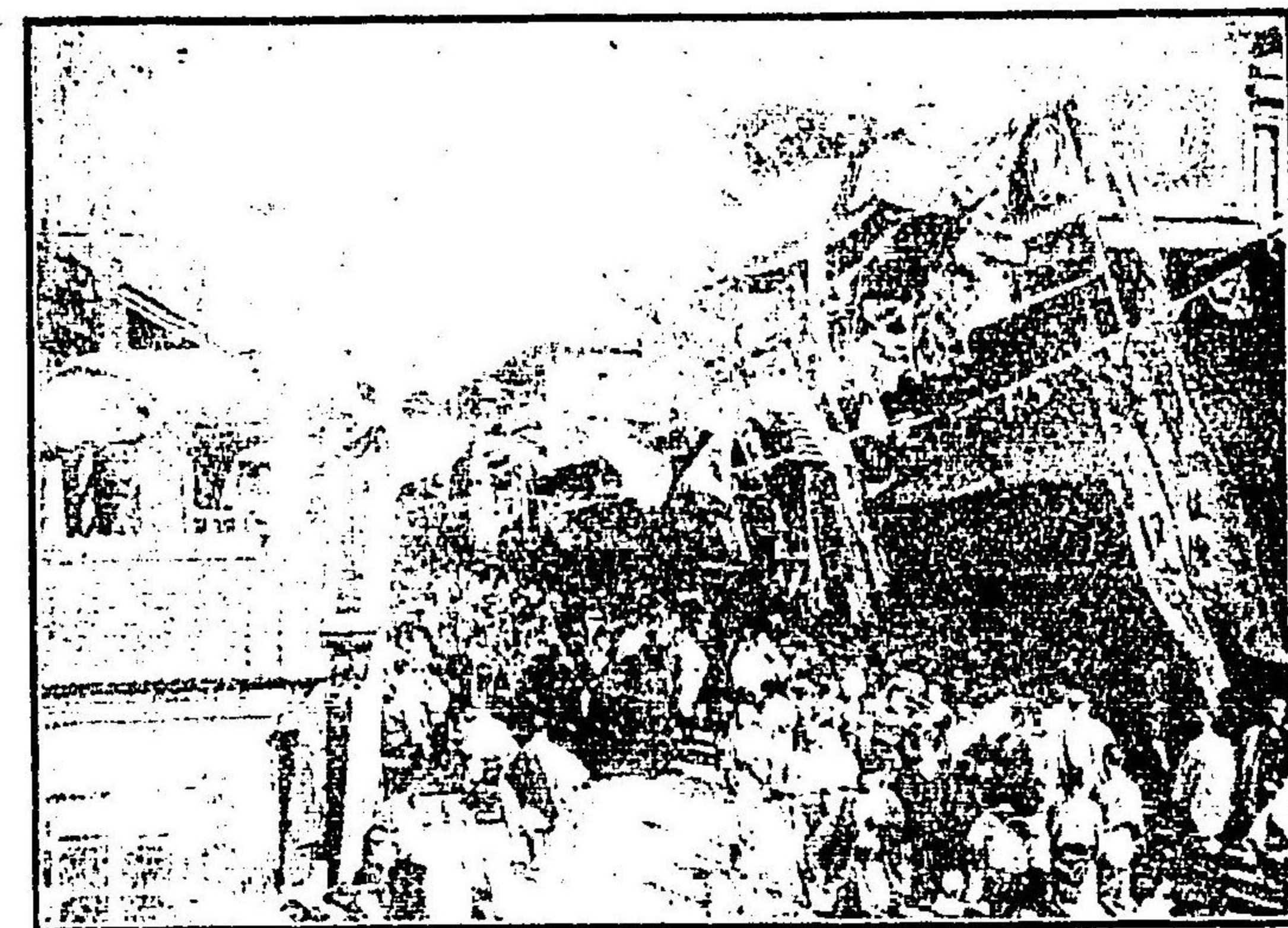
さかば便郵

便郵切手は
此の處に貼
付すべし



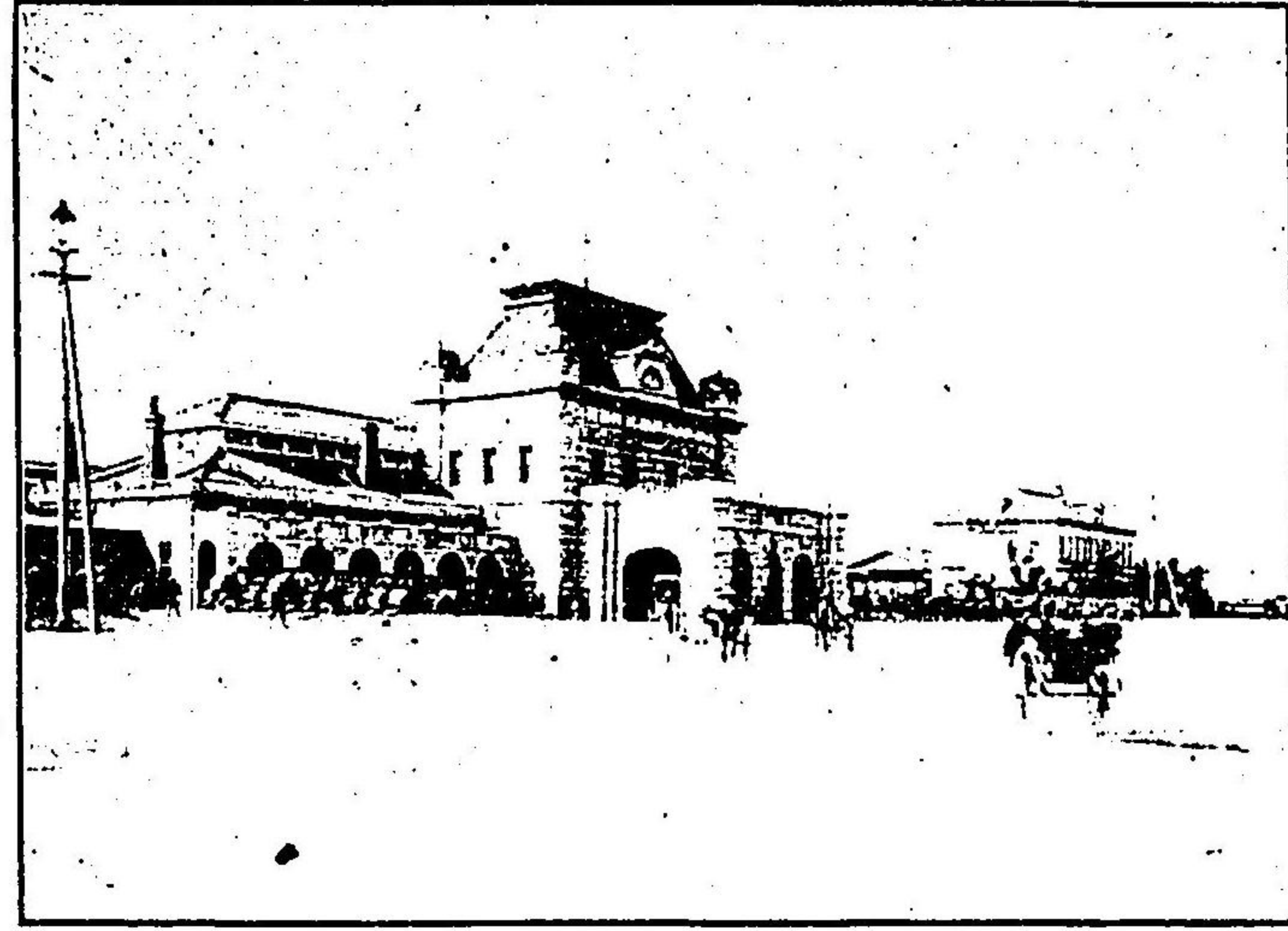
さかは便郵

郵便切手は
此の處に貼
付すべし



大阪道頓堀

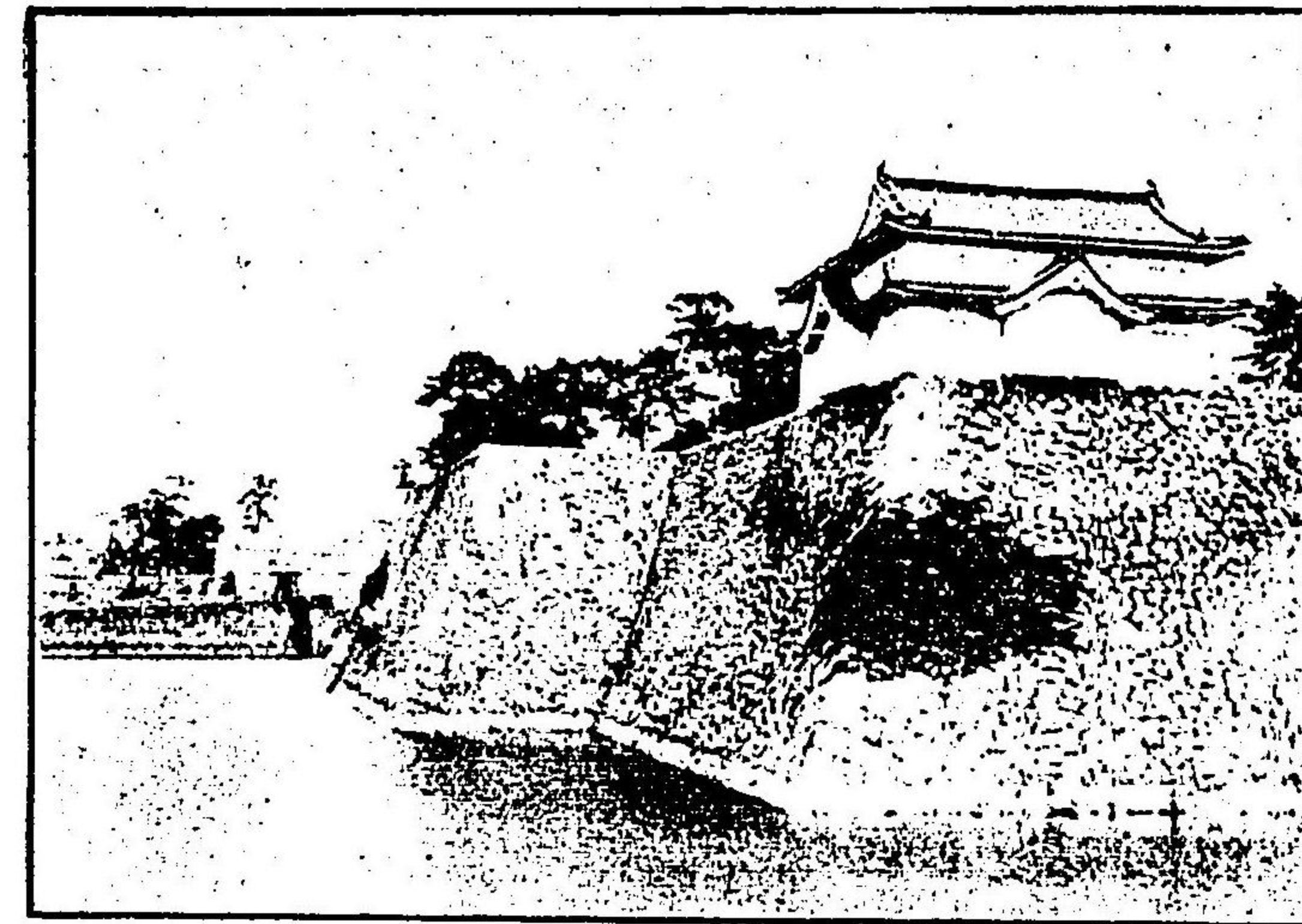
特 61
219



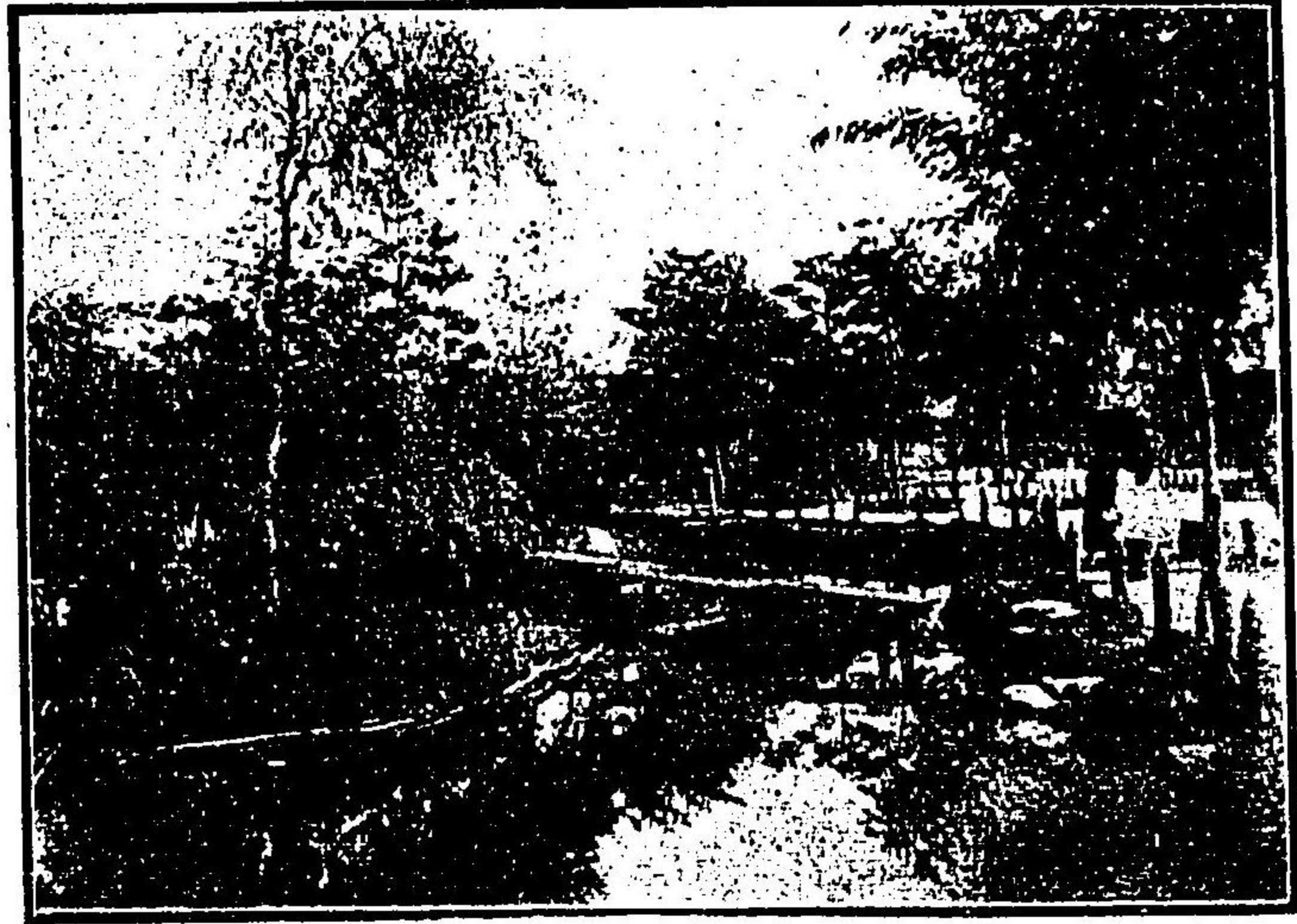
梅田停留場



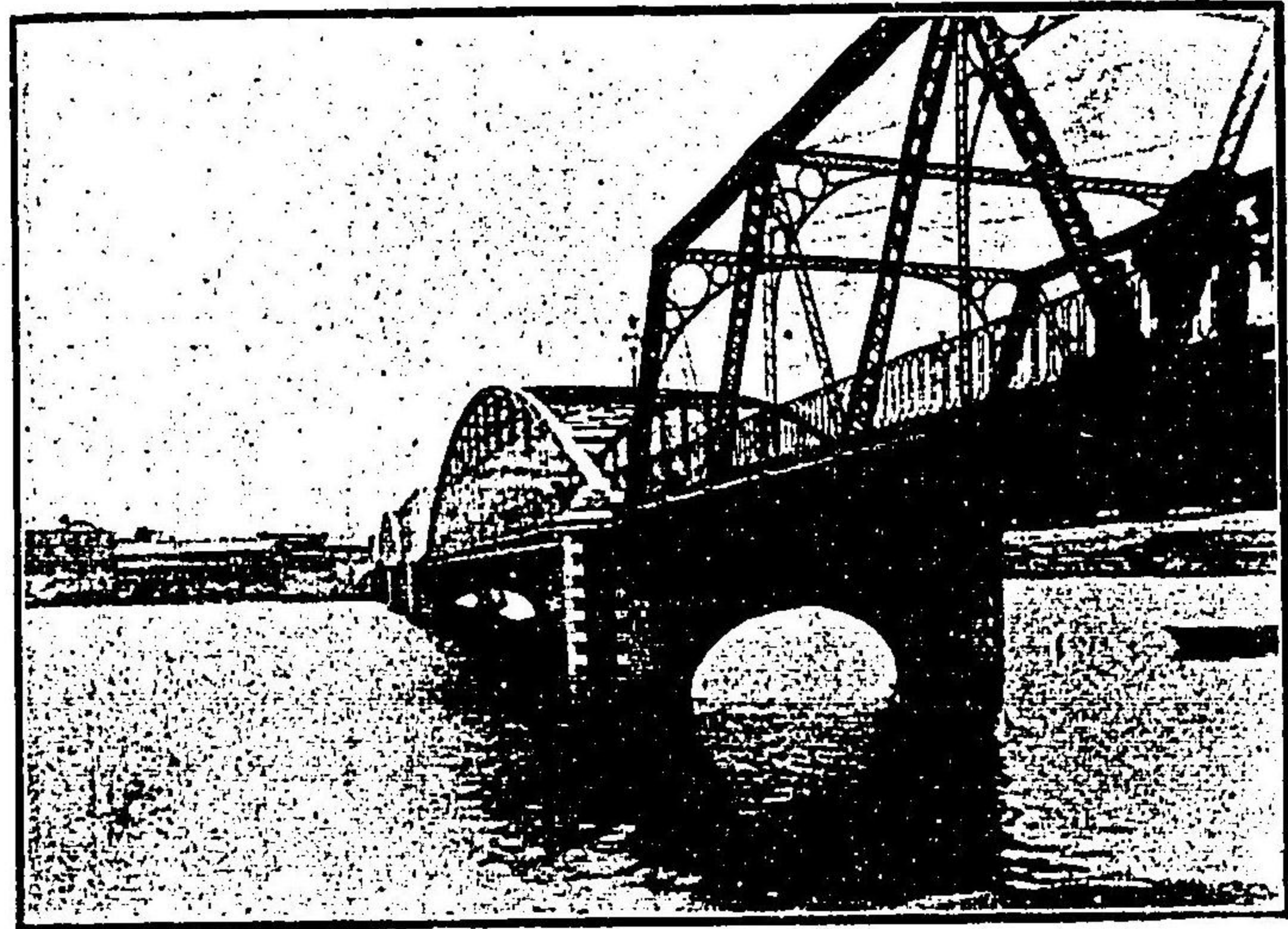
大坂川口



大坂城



中ノ島公園



天神橋

商標

大

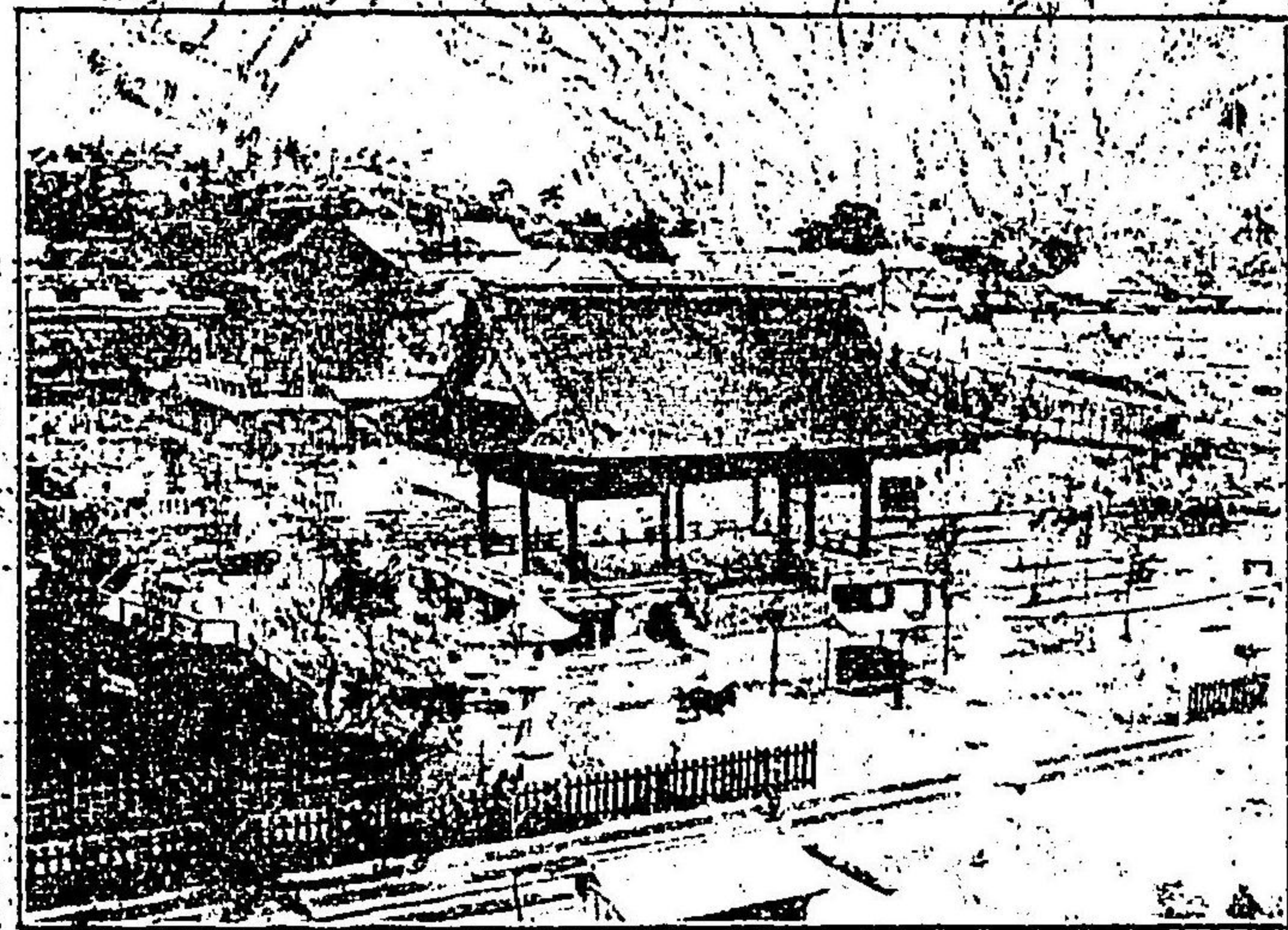
鹽田忠兵衛

味噌製造問屋
 大阪市東區瓦町四丁目七番屋敷

各博覽會
 有功賞受領

商號 大忠

電話東千九百七十一番



湊川神社



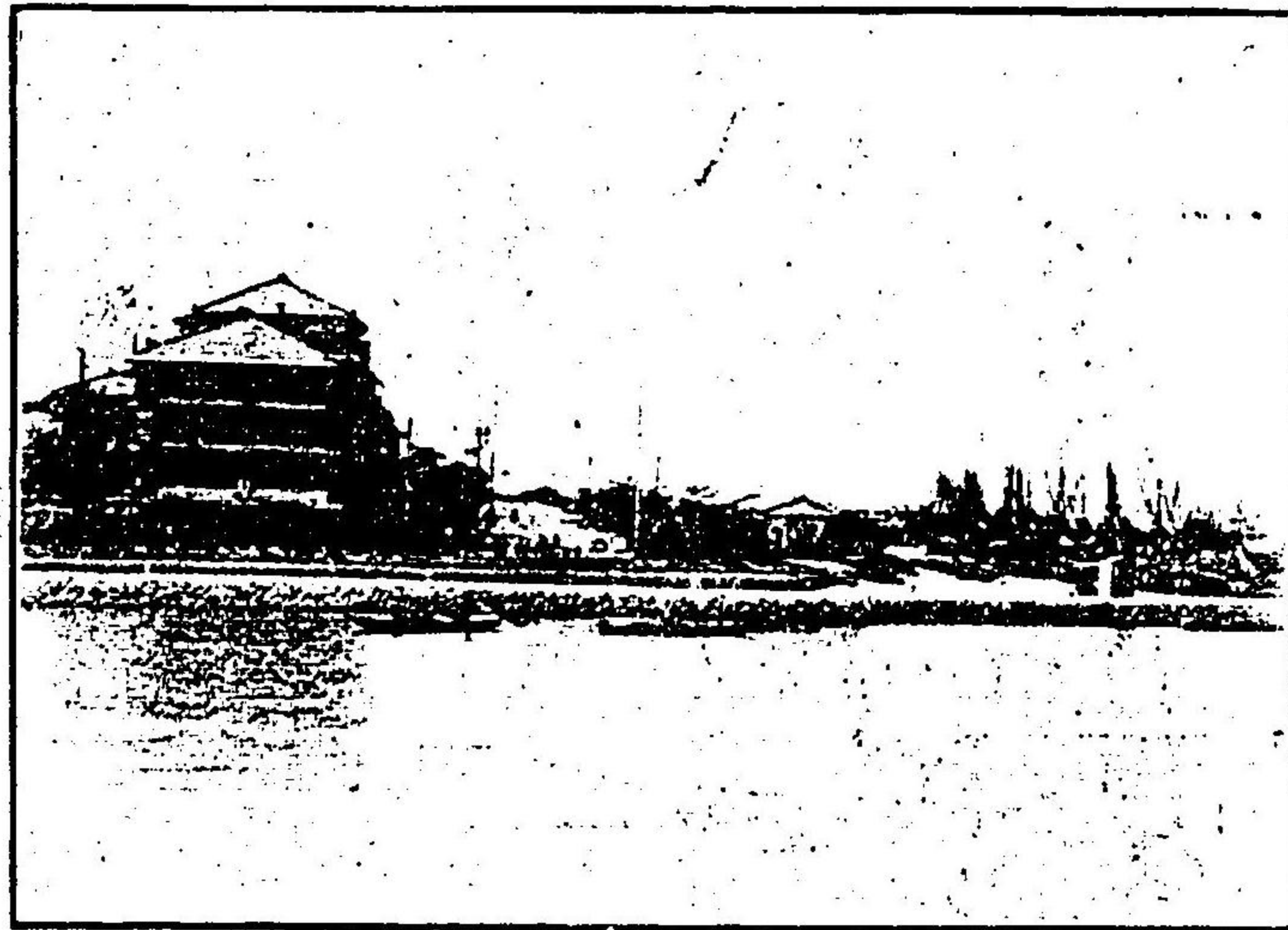
須磨ノ浦

弊舗は久しく麝香の販賣に従事せるより多年の研究にて其匂を長く保たする事を發明し即此品々を調製せしものなれば世に有りふれたる物と甚く違ひ麝香の良しき匂のめでたき而も長く其匂の保ちて体裁も亦宜しく御自用は更なり御進物にも極めて妙なれば最寄の販賣店にて御求ありて他に比類なき効能の程を御試みあらん事を祈る

浪花麝香 五匁
 岸田麝香 五匁
 人造麝香水 十匁
 人造麝香 十匁
 大坂市東区 五丁目 三番地
 電話東 五五五番
 五匁
 十匁
 十匁
 二十匁



住吉反橋

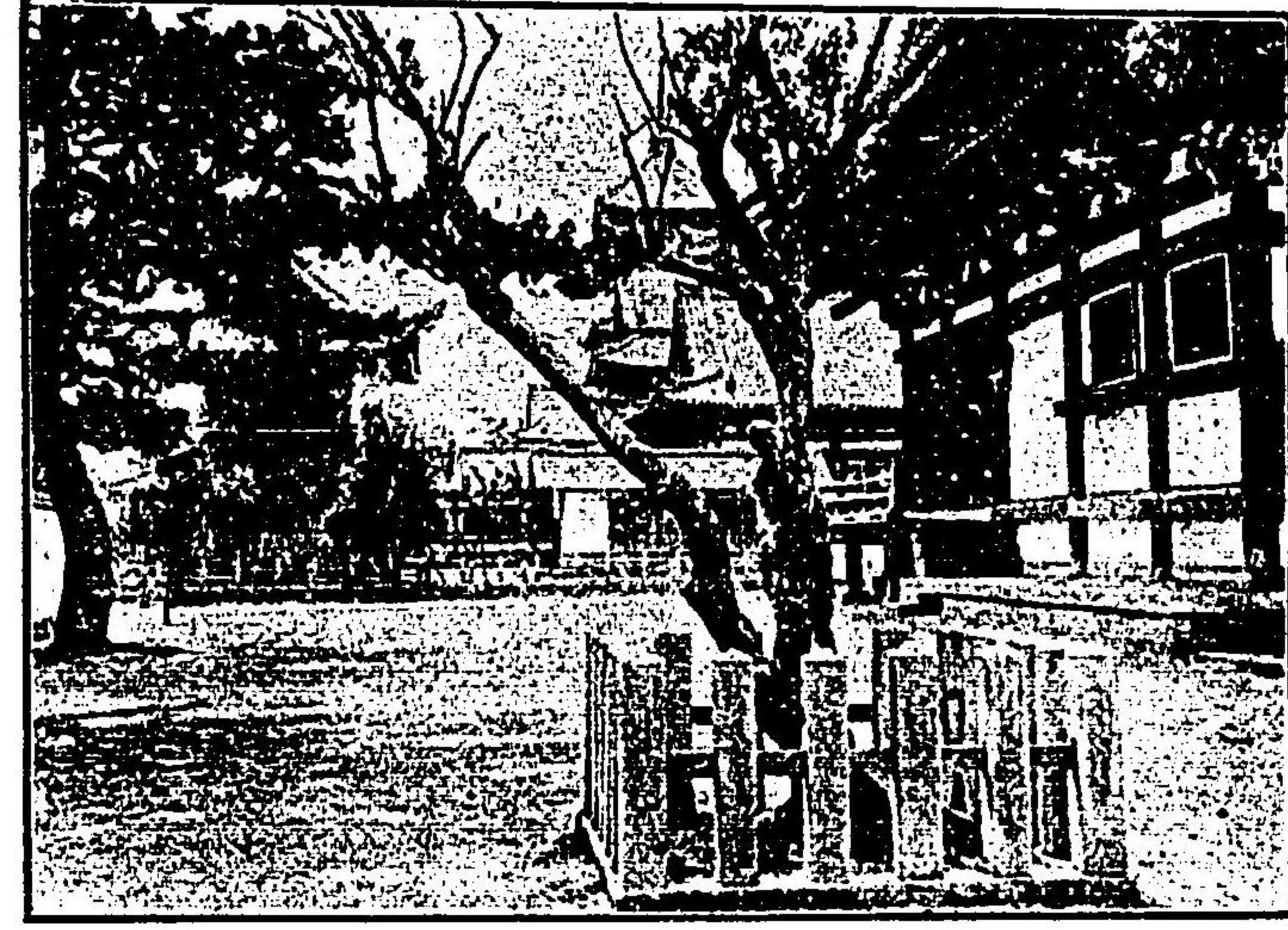


大湊

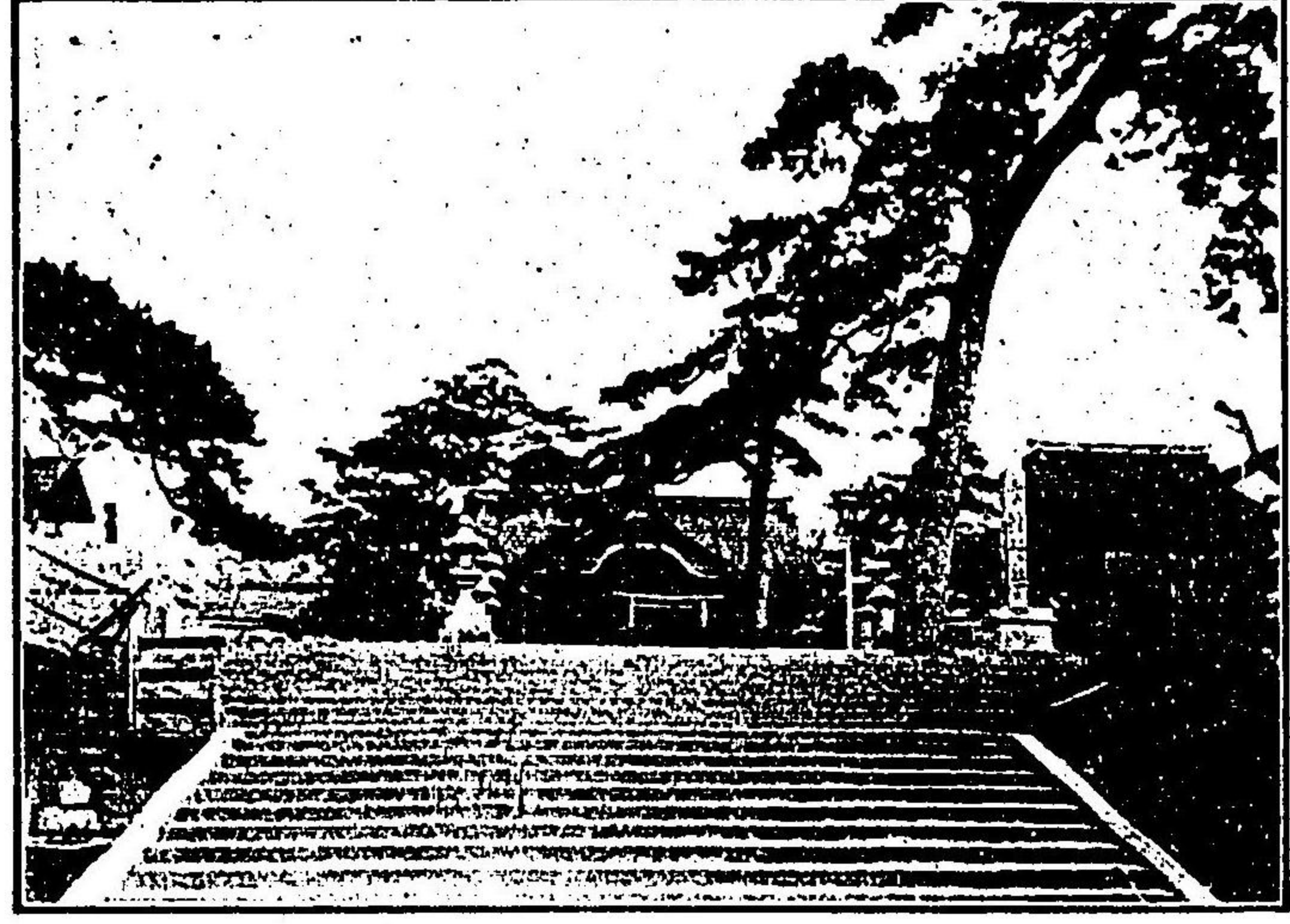
樽詰各熱
 各博覽會各國
 體裁共會
 最進々々
 美無會輸
 也賞出

奈良浪
 名一漬華

村上六萬堂
 大阪南區
 天王寺六萬町
 天王寺西門二丁北



寺 王 天 四



社 神 津 高

大工道具打及製物賣販

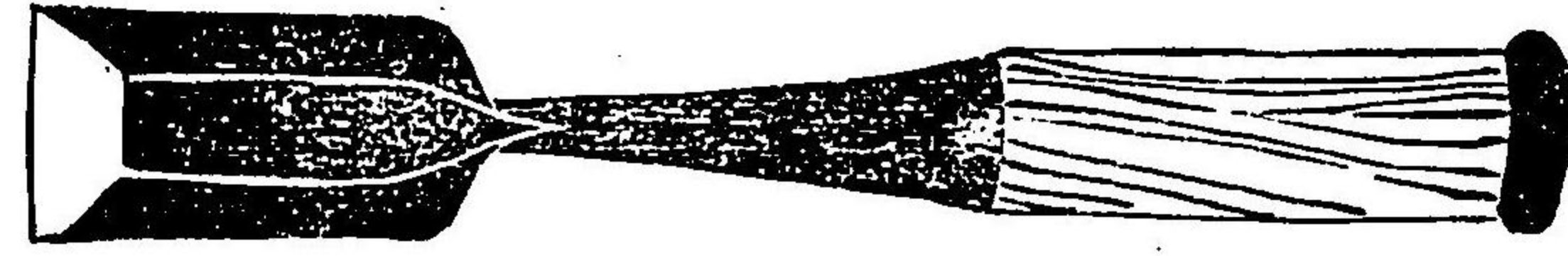
發賣元 光 下村商店

大坂市南區難波新川二丁目

正印

のみ

何種の御使用品にても調
製仕候堅唐木の柄すげも
可仕候多少に不限御注文
被下度奉希上候



鮑枚二式村下

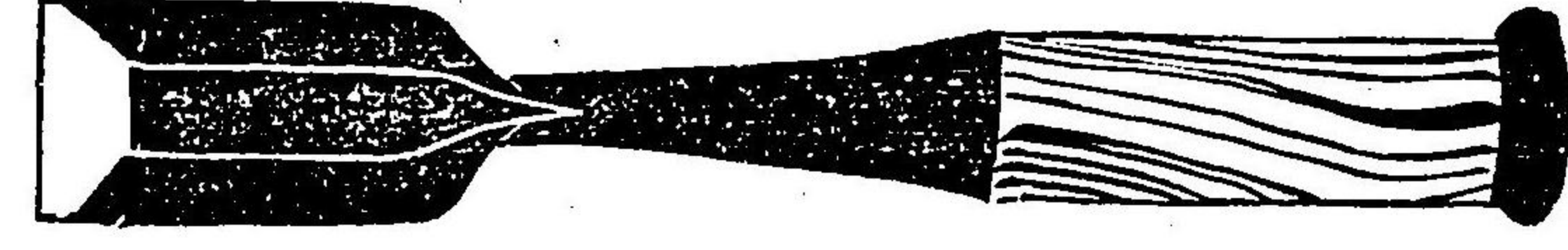


使用法普通鮑と同様にして製作上
出来なれば在來の貳枚鮑の及ぶ所
にわらず臺木の磨滅を防ぎ使用者
の勞をたすく實にかるさと在來壹
枚鮑の如し

特許第四百六三〇號
特許 かなん



本品は木工を業とする人は寸時も
欠くべからざる重要器にして用法
も亦簡便なり本品の特色は一挺の
器具にて普通鮑、脇かん、トウ
ツキかんの三種に使用する事を
得るのみならず最も切味も能く日
々しまい共大便利なり



一純金製平打指環 貳匁付 代拾圓四拾錢
一純金製印臺指環 五匁付 代貳拾八圓四拾錢
一純銀製煙管 拾匁付 代貳圓也

右純金銀ハ確實ナル保險附

其他 金銀木盃 ○ 金銀鎖眼鏡

金銀湯沸瓶 ○ 金銀茶托急須

何品に依らず種々有之候若し御不用之節は潰したりとも純金壹匁五圓に買戻します保險附

大阪市松屋町通瓦屋橋角

貴金屬美術品商

羽田両替店細工部

電話東八十二番

はしがき

汽車馳り、車走り、馬飛び、人奔る、四通
八達、大阪の繁榮は日進月歩して、臆
ては東都をも凌がんさす、第五回の
博覽會も眉宇に迫り來りて、日本全
國都市郡村、津々浦々のはてより、は
申すもおろか、外つ國の人々も、手を
連れ、袖を并べて集ひ來べきに大阪

遊覽の道しるべして、博覽會より名所舊蹟、四季様々のながめ、さては近郊の山邊、森林、野邊、河湖の風光まで、畫き記して、座右の箴とは參らずとも、せめては、闇路の燈火ともならば、やと書ゆしめしは、看る人にまかせて

明治三十五年晚秋

嗽石山人識

大阪遊覽案内

附 四近名勝

有終館編輯部 編

○ 概観

就て

大阪は商業の中心として、くより世に知られ、官私の鐵道は四周に達し、細大の河流は縦横に通じ、實に四通八達の便を得て、而して東には京都の明媚幽邃なる山水に接し、西には外國貿易を以て名高き神戸の港に連り、猶ほ大阪の港は其の懷に灣入し、堺の港は一呼吸の間に盛なり、翻つて其の市内を見れば、大小の商賈は、莖を列ね、馬車の來往は絡繹として、肩摩穀擊とは、愚かなること、眞に立錐



の地なしといふも不可なし、晦日の闇も知り分かれ電燈の光、林と
 も見擬へ、烟突の煙、これを我が國第一の大都たる東京に比するに、
 勝れることあるも劣ることはあらずめり、盛なるかなこの大阪。
 されば四方よりこの地を指して來往する旅客、輻湊する貨物、日に
 幾千の數を知らざるに、況して明治三十六年には第五回内國勸業大
 博覽會を開かる、これを錦上に花を飾るといふべきか、將た金上に
 珠を鑲むるといふべきか、その日を期して入り來るの客は果して夫
 れ幾何なるべきぞ。
 豫め知るべきこの大旅客、これを歓迎すべきの準備は蓋し千差万
 別なるべし、然れども其の最も便にして且つ必要なるものは遊覽の
 案内なるべきを信じて疑はざるなり、これ此書を發刊する所以にし
 て、而して先づ大阪に達するの順路を詳かにせしものは、旅客を

して岐路に迷ふの嘆なからしめんとするに外ならざるなり。

○入阪順路

東西南北より大阪を指して來遊するの順路は、或は瀛車に依るべく、
 或は瀛船に因るべく、その日子の許す限りは沿道の風景も探るべく、
 時には五日の旅路を三日に縮むることも得らるべし、則ち左にこれ
 を詳述せんぞす。

東北よりの順路。

東京より大阪に來るの客は必ず瀛車の便に頼るべし、日々十數回の
 發車ありて、普通は十九時間餘を費して達すべきも、新橋驛より神
 戶行の直通車、急行車に乗るときは、十六時間に過ぎずして着する

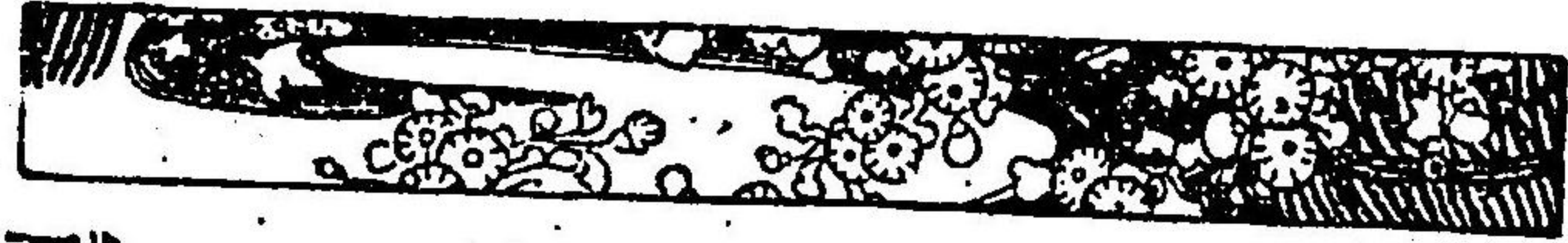




ことを得べし、尤も初めての客は夜深けて着するも不便なるべければ、その時々^{とき}の時間表^{じかんひょう}を点検^{てんけん}して、程^{ほど}よき時^{とき}に大阪^{おさか}に着するの便^{べん}を圖^{まは}るべし、即ち新橋^{しんばし}を午前六時二十分^{ぜんごくじふにふん}の急行車^{きゅうこうぐるま}に乗るときは、午後九時五十五分^{ごごじふごふん}に大阪^{おさか}に着すべく、午後十時に乗れば翌日^{あした}午後五時三十七分^{ごごじふしちふぶん}に着すべきの類^{るい}なり、これは官線^{くわんせん}鐵道^{てつどう}によるものなるが、若し途中^{ちゆうちゆう}にて伊勢太廟^{いせたいまう}に拜參^{はいさん}し、奈良^{なら}の名所^{めいじよ}をも見て後に大阪^{おさか}に入らんとせば、名古屋^{なごや}より關西^{くわんせい}鐵道^{てつどう}に乗換^{のりかへ}へんことを要^{ひつ}す、すべて鐵道^{てつどう}は連絡^{れんらく}するが故^{ゆゑ}に、別に多^{おほ}くの時間^{じかん}を待ち暮^{くろ}すが如きことあらざるなり、たゞ前に挿^さみたる圖^ずを按^{おさ}じ且^{かつ}つその時々^{とき}の時間表^{じかんひょう}を檢^{けん}して、乗車^{じやうしや}せんことを肝要^{かんよう}なりとす。

東京^{とうきやう}以北^{きた}よりする客^{きやく}も青森^{あおもり}までの間^{あひだ}に沿^そふ地方^{ちほう}は、日本^{にっぽん}鐵道^{てつどう}によりて東京^{とうきやう}に入り、更に前述^{ぜんじゆつ}の路^ちに就^つくを可^かとす、若し北海道^{ほっかいどう}の客^{きやく}なら

四



んには、青森^{あおもり}と室蘭^{むろらん}との間^{あひだ}日々^{にちごと}汽船^{きせん}の航通^{かうつう}ありて、七時間^{しちじかん}にて達^{たつ}すべければ、小樽^{おぞら}又は函館^{はこだて}より海路^{かいろ}を越前^{えちぜん}の敦賀^{つるが}に航^{かう}するにあらざれば、この線^{せん}に依^よるをよろしとす。

その他北越^{ほくえつ}地方^{ちほう}は、その地方^{ちほう}の鐵道^{てつどう}又は航路^{かうろ}によるも可^かなるべく、すべてこの邊到^{へんだん}る所^{ところ}に車船^{しやせん}の通行^{つうこう}するあれば、よろしく時間表^{じかんひょう}と順路^{じゆんろ}の捷徑^{せつけい}とを考^{かんが}へて便^{べん}に就^つんことを要^{ひつ}す。

東北^{とうほく}よりの順路^{じゆんろ}固^{もと}よりこれに止^{とど}まるにあらざれども、敢^{あへ}てその細密^{さいみつ}を説^とくの要^{ひつ}なければ、こゝに之^{これ}を贅^{ぜい}せざるべし、要^{ひつ}は地理^{ちり}の便否^{べんひ}と時間^{じかん}の配合^{はいがふ}と及び船車^{せんしや}の連絡^{れんらく}に存^{ぞん}するなり。

西南^{せいなん}よりの順路^{じゆんろ}

西南^{せいなん}各地^{かくち}より大阪^{おさか}への順路^{じゆんろ}は、これを船車^{せんしや}相半^{あひなは}すといふべし、左に

五



少しく述ぶるところあるべし。

山陽道各地

山陽鐵道に近きものは、その最近の停車場より瀛車にて神戸を
經て大阪に入るべし。

内海に濱したる地方は、その最近の港より船に便乗するも可なり、然れども船は日々一二回の航通に過ぎず、且つ時間も多きを要し殊に風波の虞もあれば、よく思案せざるべからざるなりその港名及び時間等は巻尾に示すところを見るべし。

九州地方よりするものは、その便なる限りは九州鐵道によりて門司に出で、こゝより馬關に航して山陽鐵道に連絡すべし馬關と門司との間は瀛車の發着ごとに小蒸氣船を以て旅客を送迎し、十五分にして連絡することを得。



九州沿岸の地未だ瀛車の便に遠きところは、船にて其の便を開けり、亦巻尾の記載するところを見るべし、たゞ時間は時に差違あるが故にこれを掲げず。

山陰道は未だ瀛車の便なくして、地方により頗る來往に難きものあり、その順路を掲ぐれば

石見國は海岸近きところは濱田、湯の津などより船にて馬關に出るを可とす、これよりは車と船とも客の隨意なるべし、山間にして藝州又は長州に近きところは、陸路を山口、廣島、萩など出づべし。

出雲國は一而伯耆の米子に出で、陸路人力車にて二十數里の間を走り、津山に出で、中國鐵道に依り岡山より山陽線に乗るべし、旅程三日を要すべし、一面は廣島街道を廣島に出



で山陽線に接続するも可なり、而して杵築、鷺、および伯州境などより船にて一は馬關を回り、一は敦賀に出づるもよろし。

伯耆國は境港より船するの外は津山線によるの外なく

因幡國は陸路を播州上郡にて山陽鐵道に接するの外、時として舞鶴に船するも可なり。

但馬國は多くは播但鐵道によるべく。

丹後丹波二國は、一は阪鶴鐵道により、一は宮津港より敦賀に出づるを可とす、而して京都に近き地方は京鶴鐵道を使なりとす。

四國よりするものは、その内部に存する鐵道によるか、又は陸路車馬の便を藉りて最近至便の港に出で、船にて航するを可とす。

す、その順路は卷尾の航海表を参考すべし、紀州および淡路島もまた概ねこれと同じ。

以上の他に沖繩、臺灣、および各嶋國などあれば、そは一々こゝに記さずとも、自から分明なるべければ、能く卷首の地圖と、卷尾の諸表とによりて、斟酌せんことを必要なりとす。

○旅行者の心得

旅行者の心得べきこと多し、その項目を分てば左の如し。

- 一、 時季
- 二、 準備
- 三、 荷物
- 四、 旅舎
- 五、 日記
- 六、 旅費

第一の時季は、單に旅行といふ点より謂ふときは、尋常人の旅の時



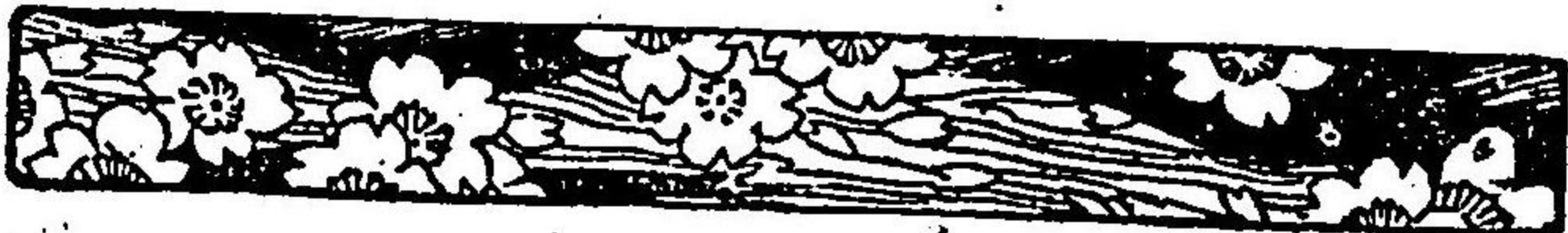
候は必ずや春か秋かといはん、如何にも寒くなし暑くなし、体に適ひし時なるには相違なけれど、これは旅通の言はぬことにて、旅といへば夏に限れりといふべし、夏は日は長し夜は短し、着る物は輕し隨て荷物は少し、夏ほど旅に適したる時節はあらざるなり、その一々はこれを各家の胸臆に考へよ。

第二の準備は、要するに時候と遠近とによりて用意すべきなり、先づ時々の衣裳、雨具、徒行の装束即ち股引、脚半、甲掛の類、成るべくは時計、磁石、筆墨の類は文具管か懐中硯かに限るべく、容器は革靴か柳行李をよろしとす、而して桐油合羽、細紐などの用意もなすべし、わけて毛布の類一枚は是非携帯するをよしとす、則ち汽車汽船に乗れる時、もしくは人力車の前かけ、殊に旅舎にても中には不愉快の敷物などの時に大に便利を見るべく、又雨雪等の日には、



頗るその要を感すべし、この他携ふべきものは、小刀、紙の類、實印もしくは見認印、手帳、地圖、旅の案内記などは、これを用意せんこと肝要なり、以上の外望遠鏡、寫真機などの携帯も樂しかるべし、婦人は鏡、櫛、針、糸なども必要なるべし。近來は各地に小包郵便の取扱ひあれば、あらかじめ滞在中に要するものと、途中に要するものとを區別し、滞在中に要するものは、これをその滞泊せんとする地の旅舎か、又は親類朋友などの家に送りこくを最上の計なりとす。

第三の荷物は、成るべく少くして用を足すことを必要となすべく、身がるく手輕くすること旅の上手といふべきなれ、さて荷物に對しての要件をいはんに、その容れ物は、手提カバンもよし、柳行李もよしといへども、雨に會ふとも容易に濡れぬやうに用心すべしこと



肝要なり、而して假初にもその取締始末方を丁寧せざるべからず
 而して成るべくは手荷物として又は小貨物として、鐵道會社に托す
 ることの安心なるには如かざるなり、その預け方および貨金等は卷
 末に就て見るべし。
 第四は旅舎なり、旅舎は成るべく識り合ひたるをよしとすれど、初
 めてその地方に旅するものは、顔なじみのあるべき筈なし、斯る場
 合にはその友達などに聞き合すか、又は今日宿せりし旅舎にて、明
 日宿るべき旅舎に紹介状など認めさせすべし、都會にては一見
 の客には宿を假さぬ風習ある所あり、都會とて一様にはいふべきに
 あらざれど、その地の中等以上の旅宿は多くはこれなり、尤も中等
 以下の旅宿にては、これに反して、豫め宿引なんどいふものを出し
 おき、無暗におのが家に泊せしめんとするものあり、停車場などに



て車夫の心得顔に連れ行くも多し、これ等は能く注意せざるべ
 からず、總じて宿屋は、小き宿屋に泊らんよりは、寧ろ大なる宿屋
 に泊るに如かず、大なる宿屋なりとて、強ちにその旅籠料の高さに
 もわらず、食物なり寝具なり、待遇に至るまで、中々深切なるもの
 なり、通例これ等は心得べきことなりとす。
 さて旅舎を定めては、その日に着用せし衣裳を乾かし、および整理
 するは勿論、必ず入浴して心神を快裕ならしめ、而して後に晚餐を
 喫し、又は酒など命じて旅懷を慰むべきなり、尤も嗜飲家といへど
 も、その量を抑へ目にするに肝要なりとす。
 次に猶一言すべきは、投宿の後便所の所在、客室に締りの有無、非
 常の時の出口など、氣を付けて見定めおかんこと、万一の時の心得
 なりとす。

猶ほ朝立出でんとするときには、忘れ物はなきやといふことを心掛けて、假りにも倉卒の所行あるべからざるなり。
第五の日記は、旅行には極めて必要の具なり、その記載すべきの要項は、旅行の種類によりて異なりといへども、假りに遊覽を主とするの旅ならんには、

- 年月日 晴雨寒暖等 出發及び投宿の地名 旅宿名及び
- 其氏名 發程及び投宿の時刻 汽車、汽船又は人力車等の
- 別、同伴者等 途上觀覽せし地名風景の略 神社佛閣の
- 名その各個の概要 觀察せし所の人情風俗若しくは言語の異
- 同等 其他記憶すべき要項 一日間に費消せし金錢その
- 細目

などは最なるものにして、旅行中には煩雜を厭ひ、又は要なきの感

を起すこともあるべしといへども、歸りて後の語り草となり、及び他日に之を反覆するときには、いと愉快を感じるものなり。

第六は旅費なり、その人の身代によりては、何程多く携ふるも隨意なりといへども、途中にて遺失又は盜難等のことなれどもいふべからず、されば、携ふる所のものは、これを現金と爲替手形とに區別し、現金は途中にて要すべきものを豫算して、多きに過ぎざるやう、その他は残らず爲替手形となして、隨時隨意に受取り得らるべきやうせんことを要す、而して爲替手形は、これを一枚にせずして、三枚にも五枚にも分ちおくことを良しとす、尙ほ念の爲めにその手形の番號金額、日付等は、別に日記又は手帳に寫し置くべし、これ萬一紛失盜難等の場合におゐて利益あるが爲めなり。
旅費の内には十錢二十錢五錢二錢一錢もしくは一厘貳厘などの小錢



を注意せんことを要す、然らざれば、一茶店の休息や、草鞋の穿き換への爲め、僅かに一錢二錢を投ずれば事足るべきを、五錢も十錢も投せざるべからざるの損を招くことあり注意せざるべからず。以上の他尚ほ多しといへども、概要を盡したれば他は之を略すべし

○大阪の繁華

東西二里二十町南北二里二十六町といふ大阪市は、攝津の南なる大阪灣頭にありて、全國の中心に位し關西の咽喉を扼する商業最盛の地にして、戸數十九萬七千餘戸、人口八十五萬二千餘人、その町數は八百五十の多きに上り、縦横疏通の河川に架するの橋は大小併せて二百四十二といふ、その交通の便なる、人家の櫛比せる、商業工業の隆盛なる、旅客貨物の輻奏せる、實に我國第一の大都會なりとす



この地は古への難波の津にして、固より今日の觀を夢想し得ざるものなりと雖も、曾て豊太閤が此に築かれしより三百餘年、頓に其の觀を新にして年々其繁華を加へ、轉た滄桑の感を起しむ。

地勢平坦にして道路四通し、大小の河川溝渠その間に縦貫横流す、川の大なるものは大川にして、淀川と寢屋川との合流せるものをいふ、その流れて中の嶋に至るや、水岐れて二つとなり、北なるは堂島川といひ西なるは土佐堀川といふ、二川又合して安治川となり海に注ぐ、木津川も其の流れ小にあらず、その源は土佐堀川の分れにして、下流は尻無川に分岐せり、二川共にその方を同くして大阪灣に注ぐ。

溝渠の大なるものは南にあるを道頓堀といひ、東にあるを東横堀といひ、西にあるを西横堀といひ、その他京町堀、江戸堀、阿波堀、



薩摩堀、立賣堀、長堀など頗る多し。市内を東西南北の四區に分ち、尙ほ河流溝渠等によりて通稱を附せり、その稱左の如し。

船場 大川より南、長堀より北、東西横堀の間。

島之内 長堀より南、道頓堀より北、東西横堀の間。

天満 大川より北部。

堀江 道頓堀より北、立賣堀の間。

東横堀より東部。

などにして、その他難波、會根崎、九條、松島、天王寺など頗る多けれども、煩はしければこれを略せり。

交通の機關としては既に河流のあるが上に尙ほ蛛網の如き鐵道あり一は官線にして東より來り梅田驛に停まりて西し山陽鐵道に接續す



これを鐵道の幹線といふべし、而して梅田驛よりは私設の西成鐵道あり、又關西鐵道の支線に連る、少しく隔たれば阪鶴鐵道に接すべし。この他の線路と共に市の内外を通ずるものを詳示すれば左の如し。

官有鐵道

梅田驛 東は東京に西は山陽線に連續す

關西鐵道

湊町驛 市の南區湊町にあり、市の東南に走りて今宮、天王寺

桃山、玉造、京橋、櫻宮、天満を経て梅田驛に連る、

本線は天王寺より東行して奈良を経て名古屋に達す。

○別に網島より發する一線あり

南海鐵道



難波驛

市の難波より發し天下茶屋を経て住吉、梁に至り和歌山に達す。

二十

天下茶屋と天王寺との間に支線あり關西鐵道に連絡し及び官線に梅田驛に接續す。

高野鐵道

沙見橋驛

南區道頓堀沙見橋より發し、木津川、勝間、住吉を経て長野に達す。

西成鐵道

大阪驛

梅田驛にあり、福島、野田、西九條を安治川口に着す。

此の如く市の四面は鐵道にて圍み、内部は河流にて疏貫したれば、その交通の便は之に過ぎたるはなかるべきなり。

大阪の繁華は近き將來において二個の大觀あり、一は明治三十六年



に開催せらるゝ第五回内國勸業博覽會にして、一は數年の間に竣成すべき築港なりとす、その本書に關係する所大なるがために、特に茲にその概梗を記せん。

第五回内國勸業博覽會

地を天王寺今宮の間にトし、その坪総て十萬八千八百八十餘坪、正面に大門ありその幅二十間とす、その左に五千三百三十三坪といへる工業館あり、右二千六百二十七坪餘の農林館と水産館とあり、工業館の次に教育館ありその坪三百坪、右には器械館(九百八十二坪)動物館(百八十坪)冷藏庫(五十六坪)温室(五十六坪)通運館、分拆室、事務局、審査室、および荷解所などの建物多く列なり、少しく離れて美術館あり、その大さ五百八十五坪、その後は四百三十一坪

二十一



の式場を設け、周らすに木柵を以てし、四邊に大道路を通じ、中庭
 および館外の餘地には樹木を圍植し、その間々には休憩所を設け、
 および賣店等を數十棟となく設けたり、而して正面に設たる噴水の
 下に装置せる楊柳觀音および各所の噴水、一として美術を盡さざる
 なく、開設の曉には實に目を驚かすものあるべきなり。
 聞く陳列館内は前回に比して頗る大を加へしといへども、猶ほその
 狭窄を感じるが故に、出品府縣の館外に別に増築を企つものありと
 以てその如何に盛大なるかを知るべきなり。

大阪築港

我國未曾有の大工事と稱せらるゝ大阪の築港は、實に明治三十年十
 月の起業にして、二千二百四十餘萬圓の經費豫算を以て就功し、今



やその一半を成工せり、其の工程は左の如し。

安治川より南は八幡屋新田等の海邊より、木津川口千本松の處ま
 で埋立地となし、船渠七所を設け、其の南を南突堤とし、その四
 條渠の前を内港とし、港内航路中央の北を外港とし安治川口の北
 部櫻島の西南を埋立て船渠一處を設け、其西縁を北突堤とし、天
 保山の西南に方りて長さ二百五十間幅十五間の棧橋を作る、突堤
 の延長は南は基点より一千八百五十五間、北は一千四百九十二間
 にして、兩突堤にて港を抱き其口百間の航路を成すにあり、其工
 事は築港觀覽船にて觀ることを得べし。

工事の大成數年の上に出でざるべし、その成るの日はたゞ我國第一
 の良港といふのみならず、實に東洋の大阪港たるは必然にして、大
 艦巨舶の集ひ來るのみならず、内外の商權はこの門より出入するや

疑を容れざるなり、たどひ其の費す所は鉅なりといへども、國運をして隆盛ならしむるは實に少しとなさず、昭代の大事業として賀すべきものと謂ふべし。

以上において既に大阪の繁華を述べたれば、これより先づ市中の名たる勝景に就き、案内を試みんとす、而して其の順序は梅田驛より東じて漸く南に巡り、更に西に轉じて再び北し終に梅田驛に復るを便なりとするが故に、こゝにその方向を取りて道しるべせんとす、然れども旅客かならず梅田驛より遊覽を試むるのみにあざれば、後において南(湊川驛即ち道頓堀邊)より巡遊するの順序をも附記すべし、よろしくその記する所と地圖とによりて遊履を試むべきなり。



大阪名所案内

梅田停車場より東南に巡り、更に西北に進んで同停車場に復る。

○梅田停車場 北區會根崎に在り去年新築落成したる高層の石館にして、輪奐の美全國無二といふ、官設鐵道の一大停車場にして、東は京都を経て東京新橋に至り、西は官設鐵路神戸に至り、神戸以西は山陽鐵道に接続す、構内は殊に廣く西邊には入堀あり貨物出入運搬の便に供す、之に接する線路は關西鐵道の城東線及び西成鐵道にして城東線は天滿、櫻宮、(こゝより網島驛に接す)京橋玉造、桃山を経て天王寺に至り、西成鐵道は野田、九條を経て安治川口に至る。

○北野凌雲閣 西成郡下三番に在り、梅田停車場の東方鐵道線路を北に越えたる處なり、明治廿一年の築造にして高さ一百尺其名の如く雲を凌ぎて屹立せり、之に登れば四圍の風景を眺望するを得べく、特に大阪全市は雙眸の中に集まるを以て、名所巡路の位置を豫め此處に取るべし、樓閣の下には周圍に庭園を開き、園中には茶亭ありて割烹の業を兼ね、傍近には鶴の茶屋車茶屋等あり皆茶亭にして割烹を兼ねぬ。

○北野天神社 一に綱敷天神社と云ふ、下三番の東南北野に在り、祭神は菅公にして昌泰年中公が筑紫へ謫せらるゝと云ふ綱を捲きて敷き之に座して憩はれし地なり。

○大融寺 北野天神社の南に在り、古義眞言宗にして、弘仁年間弘法大師之を開基し桂木寺と號せしを、承和年間河原左大臣源融

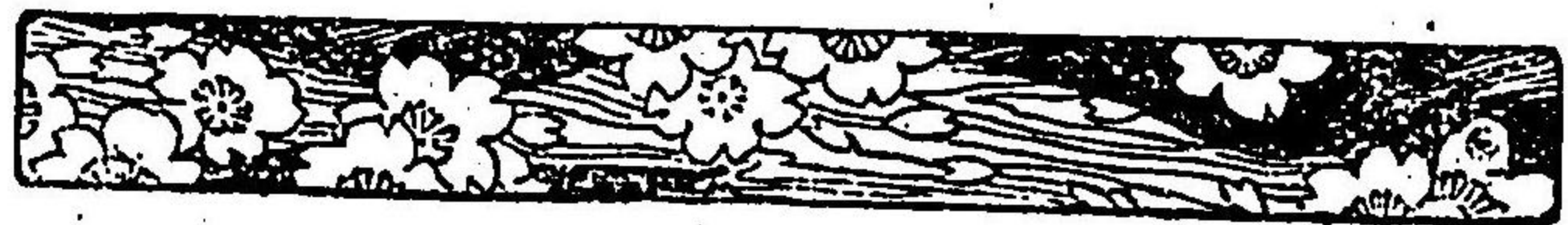


公仁海上人に命じ大に佛院を修補せしめて大融寺と號し、桂木は山號として桂木山と號す、本尊は千手觀音なり、門側に藤棚あり花時には來り觀る者多し、寺内に淀君の墓あり九重の塔なり。

○堀川監獄 堀川の右折する所にあり、方四町の煉瓦造にして頗る堅牢なるものとす。

○兎餓野 北野より天滿に亘りたる一帯の野なり、古昔仁徳天皇八田皇女と高臺に登り、鹿の聲を聞き給ひし有名の鹿すむ野なりしなり。

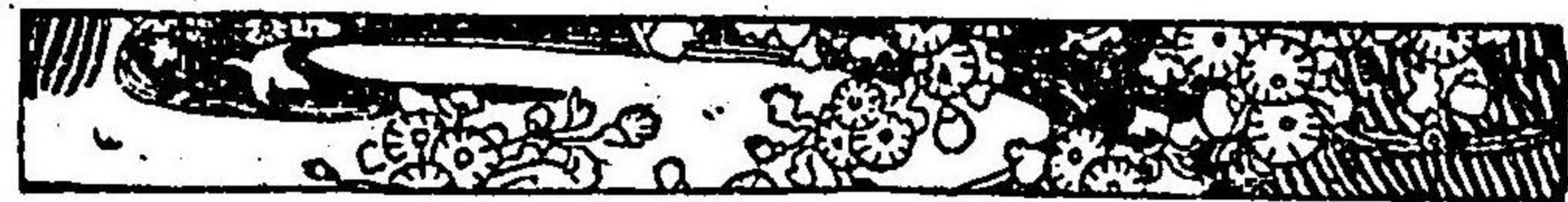
○露天神 於初天神とも云ふ、曾根崎町に在り、菅公左遷のとき大融寺に詣でられしに路の露深かりければ「露と散る涙に袖は朽にけり都のことを思ひ出れば」と詠じ給へり、依て勸誘して露天神と云ふとぞ。



○堂嶋 西天満以西堂島橋に至る一帯を云ふ、古昔聖徳太子堂塔を建てんとし給ひし材木を物部守屋惡みて流し此處に流れ寄りし故堂島と云ふとぞ、有名なる米市場は渡邊橋北詰東へ入る處に在り此市場は天正年中淀屋巨菴が建て淀屋橋の北詰に在りしを此處に遷せり、仲買店軒を並べ屋上物見臺上旗をふりて相場の高下を知らしむる等、景氣中々に盛んなり。

○商品陳列所 堂島渡邊橋の西、田築橋北詰の角に在り、商品見本を陳列して縦覽せしむる所にして、建築壯麗なり、全所は需めに應じて化學上の説明をもすべし、本所の東には商業會議所、高等商業學校、大阪測候所あり、西には堂島紡績所あり、川の南岸には府立病院、醫學校、尋常中學校等あり、何れも建築壯麗なり。

○大阪控訴院 堂島米市場河岸の東に巍々たる構造の建築物峙てる



は是なり、實に人目を驚かす、即ち大江橋北詰の東なる天満衣笠町と若松町とに跨り堂島川を隔て、公園地に面せり、中に地方裁判所を併置せり、東に北警察署、北に北區役所あり。

○中の島公園地 大江橋南詰より東の方難波橋に至るの間なり、即ち中の島の東端にして、公園の兩側には南に土佐堀、北に堂島川あり、東に遠く金城を望み、風色絶佳なり、園中種々の樹木花卉を植ふる頗る遊趣に適へり、木村長門守誠忠紀念碑、大阪俱樂部ホテル、公會堂等あり、いづれも公園に接して輪奐をつくせり、樹陰には椅子三々五々点在し、大江橋筋には朝日ビヤホール等あり住友氏寄附の圖書館も建設中なり。

○豊國神社 公園の東部に在り、別格官弊社にして豊臣秀吉の靈を祀る明治十三年の創建にして、社殿の構造清洒なり。



○難波橋 豊國神社の東なる中の島の東端より、南北に二橋となりて架る木造鐵欄にして、橋の總長さは九十七間余幅四間余あり、舊は淀川に架れる一橋なりしを、明治の初年に中の島を築出し、斯く二橋と爲せしなり、夏月は此橋下より東の天神橋に至るの間納涼の遊船集ひて頗る盛觀なり、今納涼臺を設けて一層の觀を添へたり。

○天神橋 難波橋の東に架れり、大阪第一の長橋にして長さ百三十一間余、幅六間、鐵橋にして其欄一は方、一は圓、其形奇にして實に偉觀なり。

○天満市場 天神橋北詰より東の河岸は菜蔬市場なり、又西には乾物問屋軒を並べ、菜蔬市場の北手裏町には鮮魚乾魚等の小市場あり。



○天満神社 天神橋北詰より北の方五六町に在り、府社にして菅公を祀る、境内に攝社末社多く、此他露店鱗次し諸興行物あり、一月廿五日の初天神、七月廿五日の夏祭の船の渡御は關西有數の一大神事なりとす。

○天満橋 天神橋の東に架れり、大阪第二の長橋にして、橋の中間に備前島堤道あり、是亦鐵橋にして橋欄都て方形に造る、長さは百十七間余ありて幅六間あり、備前嶋堤道橋上より東に出で網島片町に出づるを得、近く東南樹林の間に大阪城を觀風色絶佳なり

○造幣局 天満橋北詰より東へ二町なる川崎町に在り、我國唯一の貨幣鑄造所にして壯麗の建築とす、構内廣さ數町に亘り前は淀川に臨み、沿岸の櫻花は有名のものなり。

○泉布觀 宮内省の御用邸にして、今は當地の美術協會に貸下げら

れ展覧會を開きて諸人に縦覽せしむ。

○網島 造弊局の對岸に在り閑雅の地にして藤田氏その他諸家の別業多し、小春治兵衛にて有名なる寺院大長寺及び割烹舖鮎宇あり、宴席風景佳なりとす。

○網嶋停車場 關西鐵道の停車場にして、鐵道は河内の四條畷を経て山城の加茂に至り、夫より伊賀伊勢路を経て名古屋に至る。

○櫻の宮 網島の東に在り村社にして天照皇大神を祭る、社頭及び堤上には櫻樹多く、晚春花時には遊人群を爲す。

○水源地 市内上水の源泉にして、去る廿八年に通水せり、その構造頗る大仕掛にして、市内十餘万が清潔なる飲料水を得るの基礎にして、亦火防に利すること少なからず、必らず觀るべきものとす。



○八軒屋 天神橋と天満橋との間、淀川の南岸を八軒家といふ、昔時三十石の上下せしが、爲め繁昌せしが今は川蒸流の絶えず、往復するあり、旅舎はこの邊に軒を列ねたり。

○大阪城 櫻の宮の西南、東區法圓坂町に在り、往昔本願寺の法主蓮如上人始めて坊舎を建て石山本願寺と稱せり、後ち顯如上人織田信長と戦ひ雌雄決せず、朝命を以て和睦し、顯如は紀伊に退き天正十一年豊臣秀吉此城を築く今の城壘は牙城のみなり、門は大手、京橋、青屋、玉造の四門あり、元和元年豊臣氏亡びてより後は、徳川氏より城代を置きて守り、戊辰の役に官軍の有となり、今は第四師團の本營と爲る、即ち師團司令部、中部都督部、經理部、軍樂部は、城内に在り、城邊には諸營、砲兵工廠、衛戍病院、兵器廠、借行社等あり、借行社内には明治紀念碑を建てたり。





○森の宮 城南玉造字森町に在り、實は鶯の森なり、明應の頃本願寺御堂此地に在り、顯如信長と和睦し紀伊の雜賀に退去し、尙は此地の稱を略稱して鶯の森と云ふ、依て鶯の森と書せり、當今森の宮と云ふは鶯の森を又た上略せしなり、宮は用明天皇を祭る

○玉造 森の宮の西南に在り、此地は生國魂神社の祭神天生國魂神出現の地にて、其社を造りし故に魂造と號す、其古へは生玉の庄と云へり、豊津稻生社あり、郷社にして倉稻魂神を祭る。

○真田山 幸相山なり真田幸村出丸を築きて戦ひしより斯く云ふ、玉造の南に在り、近傍に騎兵第四聯隊の營所あり。

○小橋の里 真田山の西南に在り、大小橋命の館舎ありし地なり。

○圓珠庵 國學復古の碩學、契沖阿闍梨の舊居にして清堀にあり。

○産湯清水 大小橋命の産湯に用ゐし清水なり、此邊桃花を栽ゆ



ること多し、花時に觀客頗る多し、傍に産湯稻荷あり七名高し。

○味原郷 今の桃山の地なり、味原池あり仁德帝の高津の宮趾は此に在り、今の高津神社御津八幡宮は此邊に在りしなりといふ。

○舍利寺 桃山の東舍利寺村に在り、禪宗黄檗派にして山號を南岳山と云ひ、境内に善光寺の狀をうつす、石像の三十三所觀音および胎内めぐりあり。

○四天王寺 舍利寺の南方天王寺村大字天王寺に在り、荒陵山と號す、有名なる天台宗の古刹にして、用明天皇の二年聖德太子初めて東成郡玉造の岸に創建す、然るに海波來りて岸を壊し、惡禽糞よりて佛閣を啄むを以て、推古天皇の元年に至て今の地に遷せり、即ち今を距ること千三百餘年前なり、後ち天正及び元和年間二回兵燹に罹りて焼亡し、寛文四年に至り徳川家綱命じて殿堂伽藍を



再築せしめり、今の堂塔是なり、西門の額は小野道風の筆なり、六時堂は傳教大師の草創にして、比叡山根本中堂を摸し、太子堂の前に猫の門の上なる猫は左甚五郎の作なり、春秋彼岸には賽者群集す、明年の博覽會を期し、聖徳太子頌徳鐘を鑄る、その高さ二丈六尺、重さ四萬二千貫にして、世界第一の鐘といふ、この頃輸ふさを執行せり。

○茶臼山 四天王寺の西南に在り、綠樹鬱葱たる一小岡にして、古へは荒陵と云ひたるが、岡陵茶臼に似たるを以て斯く云へり、慶長年間豊臣氏の陣所となり、元和元年眞田幸村此に戦ひて死す、岡の東南に邦福寺あり、禪刹にして俗に雲水と云ふ、此寺庭園幽雅にして、寺中の遊息亭には需に應じて普茶料理を羞む價廉なり、この西麓を博覽會の地とす。



○一心寺 茶臼山の北に在り、浄土宗にして文治元年圓光大師の開基創建に係り、大師二十五ヶ所舊跡の一なり、本尊は印度の毘首羯摩の作長け三尺の阿彌陀佛なり、境内に駒繫松あり、徳川家康の駒を繫ぎし松なり、又本多忠朝及び其臣九人の墓なり。

○安井天神 一心寺の北に在り、天神と云へど菅公を祀るに非ず、少彦名命を祭る、社前の舞臺眺望佳なり。

○新清水寺 安井天神の北に在り、山號を有栖山と號し、聖徳太子の作十一面觀音を本尊とす、音羽の瀧とて三條の瀧あり、京都清水寺に擬す、隣なる八百松樓は名ある料亭なり。

○夕陽岡 新清水寺より東北に續きたる岡阜の名なり、土地高燥にして西の一方開け眺望佳なり、阜上の稍高き處に藤原家隆の墳あり、墳の東の夕陽菴は其僑居の跡なり。



○勝曼院 夕陽菴の南に在り、本尊は愛染明王にして多寶塔には大日如来を安ず。

○合邦が辻 一心寺相阪の西に在り、路傍に石像の閻魔玉を安ず、謠曲等に於て其名高し。

○安倍野 四天王寺の南大門より住吉に至る間に在り、此地は平清盛熊野より歸途、都の變を聞きたる處、又北畠顯家の高師直と戦ひて死せし地なり。

○安倍野神社 安倍野に在り別格官幣社にして明治廿一年の創立に係り、北畠親房顯家を祀る、社地は丘陵の上に在りて古の住吉岸なり、今尙此地を岸野と云ふ。

○北畠顯家の墳 安倍野に在り里人之を大名塚と云ふ。

○今宮神社 博覽會場の西二丁餘今宮町に在り、今宮の戎と云へど

蛭子尊のみを祭るに非ず、天照大神、大日貴命、素盞烏尊、月讀尊を祀る、一月十日十日戎とて賑ふは人の知る所なり。

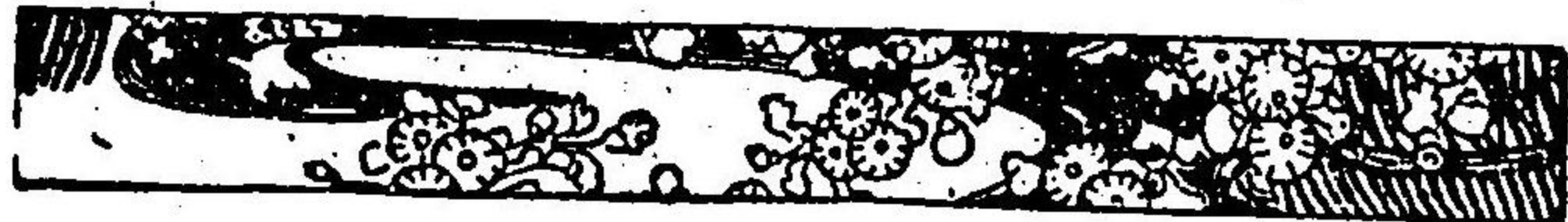
○廣田神社 今宮神社の北に在り、本社は天照大神の荒靈を祭る、社地の西方に萩あり秋至れば遊人集ふ。

○難波八坂神社 廣田神社の西難波町に在り素盞烏尊を祭る。

○瑞龍寺 八坂神社の北に在り、禪宗黄檗派にして、本堂には薬師佛十二神將を安し、天主堂には彌勒佛を安ず、始めは薬師寺と號し、數百年前の草創にして延寶四年鐵眼和尚之を再興せしを以て鐵眼寺と云ふ。

○南濱舞場 難波新地南海鐵道停車場の北、戎橋筋西側に在り、五花街の藝妓此に歌舞を演ず、芦邊踊とはこれなり。

○水族館 もこのあたりにあり、陳列よろしきを得て、大に觀覽の



價あり。

○難波停車場 演舞場の少し南に在り、南海鐵道の停車場にして、堺岸和田等を経て和歌山に至る。

○五階眺望閣 演舞場の東南に在り、五層の高閣にして、凌雲閣に亞ぐ、北は市中を瞰し西は遠く海面を望む。

○千日前 五階の北に在り、此地は舊時千日の茶毘所ありし前面なり、故に千日前と云ふ、往時此邊りは墓原にて路側に刑場ありたり、觀せ物等の興行地は演舞場の北なる溝の側に在りしを、明治の初に至りて此處に移せり、此南には新金毘羅社あり、中部の東に自安寺妙見あり、北に竹林寺、法善寺あり、法善寺には金毘羅社あり、賽者多く境内には寄席茶亭割烹店ありて賑はし。

○道頓堀 東横堀より木津川に入る一條の堀川を道頓堀と云ふ、通

常道頓堀と云ふは日本橋南詰より戎橋南詰までの間五座の劇場ある地を云ふ、市内第一熱鬧の地なり、劇場五座は西より數ふれば浪花座(元と筑後芝居とも大西とも云へり)中座、角座、朝日座(若太夫粗此位置に在りたり)辨天座(竹田芝居此位置に在りたり)此他芝居茶屋、飲食店等軒を並べ、行人東西に旁午雜沓す、演劇興行の初は寛文二年の頃と云ふ。

○五花街 とは宗右衛門町、九郎右衛門町、櫓町、坂町、難波新地にして、藝妓娼妓の店各所に在り、絃歌の聲日夜にかまびし、

○湊町停車場 道頓堀芝居側の西、浪芳橋西詰の西南に在り、關西鐵道停車場の起點となれり、鐵道は天王寺に至りて北へ城東線を岐ちて梅田に達し、本線は大和に入りて奈良に達し、夫より伊賀伊勢を経て名古屋に至り、大和の王子驛にて分岐するものは櫻井

釋に至る。

○二ツ井戸 道頓堀芝居側の東、松屋町筋西へ入る所に在り、清泉にして近傍の用水とす今は名のみにして井戸なし。

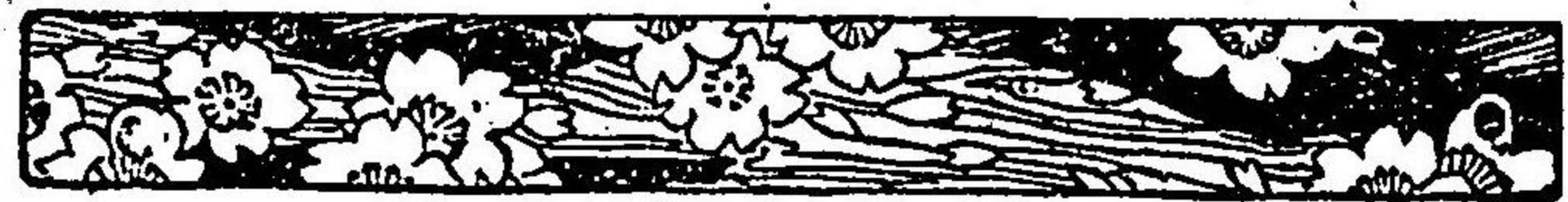
○生國魂神社 二ツ井戸の東南下寺町筋より上りたる處に在り、官幣大社にして生國魂、足國魂の二神を祭り、大物主命を合祀す拜殿本社ともに東面し、清酒にして嚴整なり、社殿の背には懸崖の上に舞臺あり、舞臺の南に新坂を開きて下寺町に通ず、舞臺に入れば全市を瞰み、遠く淡路島及び播磨の青巒を雲烟模糊の間に認む、境内に櫻樹多く茶店あり春宵夜櫻とて來り觀る者多く、又社殿の東には賽路を抉みて左右に蓮池あり、池中に辨天祠あり其南に北向八幡宮あり。

○高津神社 生國魂神社の北なる南區高津町一番町にあり、府社に

して仁徳天皇、仲哀天皇、應神天皇、神功皇后、履中天皇を合祀す、本社は貞觀八年味原郷なる東成郡比賣古曾神社の境内に草創せしを、天正十一年今の地に遷せり、社地は高燥にして老松賽路を挿み、梅が辻通より華表を入れれば石橋あり梅の橋と云ふ、此名は難波の梅より起れり、本社は南面にして東に社務所高臺の碑あり西、舞臺あり西、道頓堀を瞰し全市双眸に入り景色佳なり、其北に西阪あり、西阪を下れば有名なる黒燒屋二戸あり、本社の西に北阪あり、東に高倉稻荷社あり、賽人常に絶えず、本社の南の石燈を下れば有名なる湯豆腐屋あり。

○吉助 高津の西なる有名の楠木屋なり、園内に種々花樹あり、牡丹の花盛りには諸人群集す。

○梅屋敷 上本町七丁目に在り、梅に古木あり古來有名なる庭園な



り。

○隆專寺 中寺町に在り糸櫻を以て有名なり

○西照館 生玉の南、高閣あり眺望によるし、席貸料理を營む、他に好晴館ありまた有名なり。下寺町を北に行けば道頓堀の東に出づ二ツ井戸とて西芝居前へかけて繁昌なる街なり。松屋町は此筋にして當區に屬する部分は雜菓子製造業軒を列ぶ。

○新梅屋敷 東高津に在り(桃山の西北)庭園の趣面白けれ梅は新樹なり。園内各所に亭座敷を設け茶菓は云ふに及ばず酒肴の需に應ず。また行樂の一箇所なり。

○中井氏の墓 浪華の大儒中井登庵、竹山、履軒の墓は寺町八丁目浄土宗誓願寺に在り。

○井原西鶴の墓 浮世草紙の開山松壽軒井原西鶴の墓また同寺に



在り、時に文學者の懷舊の涙を手向るものあり。

○近松門左衛門の墓 時代に世話に不朽の戯曲を物したる門左衛門の墓は、谷町寺町日蓮宗法妙寺に在り。是等は日本文學に光輝を放ちし大詩人の永眠せる所として浪華の誇る可き所なり。

○朝日神明宮 空堀の北なる内安堂寺町通骨屋町筋北へ入る西側に在り、天照大神を祭る、元暦の昔源義經梶原景時と逆櫓の論を爲せしとき互ひに祈願せし神なり、故に逆櫓社とも云へり、古へは此邊り海岸なりしを以て、論の岸、又は樓の岸とも云ふ、本社寶物に多田満仲、源義經、梶原景時の寄附せし武器數多あり。

○寶泉寺 内安堂寺町通谷町筋と上本町筋との間なる櫻町に在る尼寺なり、本尊は聖德太子の作正觀音にして、太子の乳母刺髮の後其庵なる四天王寺引齋堂の南に安置せり、然るに後世に至り其



菴室頽廢せしを以て、覺如比丘尼之を今の地に遷して再興せり。
 ○大阪博物館 内安堂寺町より北、本町橋東詰北へ入る東側に在り。此地は維新の前西町奉行所の在りし地なり、松屋町筋に在るは裏門なり、表門を入れれば西洋館あり、天井は張天井にして四天王寺法隆寺等の古書を模寫し、床板は種々の木材を接合す、此館内には観古美術品なり古書畫、古器物、佛像の類を陳列し、別に美術參考品陳列の館數棟あり、皆正札を附して置く、東の出口には動物園あり、尙ほ庭園あり園中に休憩所あり、能舞臺あり、茶室あり、園の東方に錦繡堂あり、皇后陛下嘗て入らせらる所とす。
 ○高麗橋 博物館の北數町にあり、東横堀に架す、府下鐵橋の嚆矢とす、里程元標のあるところ、左に市内各所の要地に至る里程を示さん。



梅田停車場	廿六丁	大阪城	十二丁
博物館	五丁	造幣局	十五丁
天満神社	八丁	豊國神社	十丁
株式取引所	四丁	三井銀行	二丁
御靈神社	十三丁	北御堂	十四丁
南御堂	十八丁	座摩神社	十九丁
心齋橋	廿四丁	日本銀行支店	十三丁
越前院	十二丁	堂嶋米市場	十四丁
大阪府廳	卅丁	商品陳列所	卅丁
新町遊廓	廿五丁	大阪郵便局	十五丁
道頓堀	廿一丁	網島停車場	廿五丁
四ッ橋	廿八丁	難波停車場	卅三丁
高野停車場	一里八丁	京橋停車場	廿丁
玉造停車場	廿九丁	天王寺	一里十丁



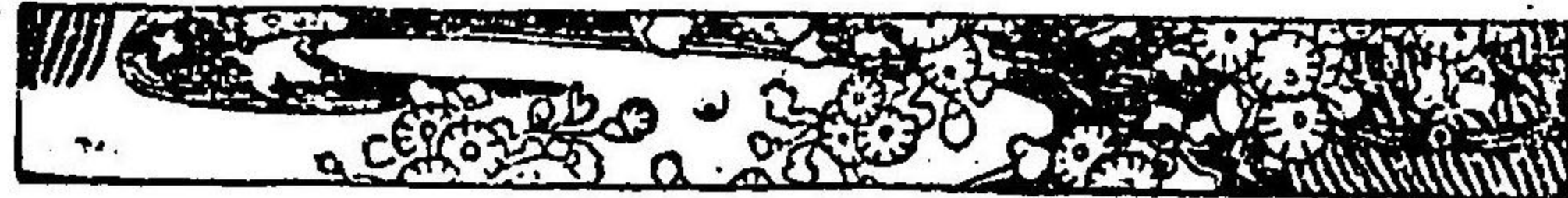
同 停車場	一里廿丁	博覽會場	一里七丁
湊町停車場	卅三丁	生玉神社	廿九丁
高津神社	廿五丁	水源池	卅一丁
川口波止場	一里	松嶋遊廓	卅五丁
阿彌陀池	卅二丁	天保山砲臺	二里

○築地 八軒家の西、今橋西詰を北へ入りたる處にあり、此地席貸多く東は東横堀、北は淀川に臨み風景佳なり。

○株式取引所 築地の西なる北濱に在り、建築壯麗にして人目を驚かす。

○玉の井 株式取引所の西、大川町を経て西横堀西國橋を渡り、筑前橋南詰玉水町に在り、清泉にして四時溜るゝことなし、此町内に加島久と云ひし廣岡氏あり、大川町には日本銀行支店あり。

○青年會々堂 玉水町の西に在り、公會堂にして宏壯なる建築なり



○北船場 玉水町より西國橋を東に渡り、東西横堀間、南北は淀川の濱なる北濱より本町に至る間を云ふ、此處には今橋通に鴻池氏北濱内通(元過書町)今橋通の西には辯護士事務所多く、淀屋橋南詰には煙草入商軒を並べ、高麗橋通には三井銀行、全吳服店、第一銀行支店其他銀行會社多く、道修町には藥舗軒を並べ、平野町通は軌今大に繁榮し、平野町以北淀屋橋筋、以南心齋橋筋は繁華なり、本町には吳服太物の卸商諸會社銀行多く都て此區には豪富多し。

○心齋橋筋 平野町より以南は市内第一等の場所にして人車絡繹織るが如く、石原、北出等の塔時計屹立し、舶來品を鬻ぐ店、書肆等店並美はしく其繁昌のさま目も眩するばかりなり、淡路町角の日本貯金銀行の新築殊に美觀なり。



○堺筋 心齋橋筋より東四ツ目の通にして心齋橋筋に次いで繁昌の街なり。

○本町 大商家軒を列ね下より取引の客常に絶えず荷造いと忙がはし。橋詰に東區役所堺筋の東に東警察署あり。

○劇場及寄席 御霊社内に文樂座あり、人形淨瑠璃を演じ日本一の越路太夫の美聲を聴く可し。稻荷社内の文樂座も元大隈一座の人形淨瑠璃なりしも今は演劇となれり、その他寄席の重立てるものは淡路町に桂派の幾代亭、平野町に三友派の此花館夜毎に開けて解願の娛樂を覺えしむ

○佛光寺掛所 平野町中橋西へ入る南側に在り、船場御堂と稱す。

○御霊社 平野町御霊筋に在り、神社を一に圓社と云ひ又五郎祠とも云ふ、天正年中龜井能登守の邸此地に在りて龜井町と云ひ、



侯の邸内に勸請せし神祠なりしと云ふ、今は府社にして祭神は天照大神、八幡宮、鎌倉權五郎景政の靈なり、例月一日、六の日、縁日にて露店多く出で、大阪第一の大縁日市を開く。

○津村御堂 御霊社の南安土町の西に在り、表御堂とも北の御堂とも云ふ、通例は北の御堂と云ふなり、又津村御堂と云ふは圓御堂の訛なりと云へり、京都西本願寺の掛所にして本尊は安阿彌作の阿彌陀佛なり。

○南船場 本町より南、長堀に至り東西横堀の間を云ふ此區も亦家多し。

○難波御堂 津村御堂の南なる南久太郎町御堂筋に在り、裏御堂とも又南の御堂とも云ふ通例は南の御堂と云へり、京都東本願寺の掛所にして、本尊は安阿彌作の阿彌陀佛なり裏通には古着屋多し



○座摩神社 難波御堂の西、南波邊町に在り、祭神は生井神、阿須波神、榮井神、綱長井神、波比祇神を合祀す、本社 of 起りは遠く神功皇后の時に在りて皇后三韓より凱陣のとき御船を浪速の浮見石の邊りに寄せ、神璽を鎮めて齋を給へり、其地を浪速沼と云ひて今の石町の地に在りたり、應神天皇の三年十一月此舊地を下して本社殿を創建せられ、天正年中一旦淡路町一丁目に移し、其後今の地に遷せしなり。

○芭蕉翁終焉地 南久太郎町五丁目花屋裏に在り花屋菴と云ふ。

○綱屋貞柳宅趾 南御堂前御堂筋舊雜屋町の西南角なり、貞柳は菓子屋の主人にして狂歌に工なりしは人の知る所なり。

○上難波神社 南久寶寺町と博勞町との西、御堂筋西へ入る處に在り、攝社に稻荷社あるを以て博勞町稻荷と云ふ、祭神は仁徳天皇



なり、本社 of 創建は反正天皇元年十月にして、大江阪平野郷に在り頗る大社にして後三條天皇詣し給ひしことあり源頼朝、足利將軍等社参ありて神領を寄附せり、然るに天正十年大阪城を築くとき此地に遷せしなり。

○油掛地藏 博勞町より三筋南、安堂寺町一丁目筋角に在り、石像にして油を注げて祈願するを以て此名あり、像の背面に天平十一年安曇寺と刻せり由來久し。

○心齋橋 長堀に架する鐵橋にして明治五年の架橋なり、橋下に一柱をも用ゐずして半月形の鐵桁を以て全橋の重量を支ふ、橋の南戎橋に至るまでに、十合、大丸、高嶋屋等の呉服店あり、又勸商場ありて殊に繁盛なり。

○御津八幡宮 心齋橋の西に架れる佐野屋橋より南へ數町、八幡筋



の角に在り、應神天皇を祭る、往昔豊前の宇佐より石清水へ遷し奉る八幡宮御津の濱に御着ありしに由りて勸請せしと云ふ、佐野屋橋筋には古着屋軒を並べ八幡筋には道具商多し。

○御津寺 八幡宮の南の筋なる御津寺筋に在り、古義真言宗にして大福院と號す、本尊は行基菩薩の作十一面觀世音にして行基の開基なり、創建の年代は詳ならず。

○四ッ橋 西横堀と長堀と交叉せし處に架る四橋井字形を爲せるを以て其名高し、西南詰に源藏張とて煙管屋あり、橋畔の碑に「すいしさに四ッ橋を四ッ渡りけり」と。

○堀江市の側 四ッ橋の南に架れる御池橋の西に在り、往時は菜蔬の市場なりしが、今は名のみ遺れり、是より南の橋通には道具屋多し。



○蓮池山和光寺 市の側より西に在り阿彌陀池とも云ふ、天台宗にして本尊は長け一尺五寸の金銅の阿彌陀佛なり、境内の北に橢圓形の小池あり、池の中央に寶塔を建て之に橋を架す、塔を放光閣と云ひ、塔中に三尊の阿彌陀佛を安置す、故に阿彌陀池と云ふ、寺は信州善光寺に屬す、欽明天皇の御宇百濟國より佛像を持渡れると、物部守屋等帝を諫め奉り佛像を難波の堀江に沈む、然るを本田善光と云ふ者これを拾ひ、本國信州に歸り邸宅を喜捨して善光寺を創し之を安置す、其舊縁の地なればとて元祿の頃智善上人此地に一寺を建て、善光寺同体の阿彌陀如來を安置し常燈を傳へりと云ふ、史を按ずるに難波の堀江は大和國高市郡飛鳥川の西の邊りに在り、畢竟は擬地なるべし。

○西長堀材木市 和光寺の北、長堀河岸に材木問屋並列し毎朝市を

立つ。

○新町 寛永年中より遊廓あり其名高し、然れども今は新町橋通なる大通には寥寥として二三戸存し、其南の筋なる越後町盛なり、九軒は新町通の北通なり、夜櫻ありて名高し。

○廣教寺 新町の北西薩摩掘に在り祝松山と號す、眞宗にして本尊は青蓮院宮尊純法親王の念持佛なりし阿彌陀如來を安ず、薩摩掘御堂と稱す。

○朝廣教寺の東北に在り、乾魚商軒を並べ西に永代濱ありて、干鰯商海部堀の北岸に並び、南岸には乾魚商軒を並ぶ。

○雜喉場 海部堀の西北、京町堀と江戸堀との間の西に在り、毎朝鮮魚の市盛んなり。

○土佐稻荷社 鯉坐の西南なる長堀南岸に在り、舊と土州侯の邸内

鎮守なり、今は岩崎氏所有地内に在り境内小公園の如し。

○博勞淵 舊址は土佐稻荷社の西、高橋の邊りの民家の裏に在り、大坂冬陣に薄田兼相の兵の屯せし地なり、此邊、西長堀、堀江、西道頓堀には荷受問屋多く又船具商も多し。

○沙見橋停車場 西道頓堀沙見橋南詰南へ入る處に在り、高野鐵道の停車場にして、鐵道は堺を経て河内に入り、紀見井峠の彼方なる橋本に至る。

○三軒屋紡績場 博勞の南、木津川の西岸に在り、大阪市に全場多しと雖も、建築は之を第一とす。

○千本松 木津川口に在り海濱の松原にして風色絶佳なり、東岸に燈臺あり、光達八裡といふ。

○茨住吉社 九條に在り、祭神は底筒男、中筒男、表筒男、神功皇

後の四坐にして寛永元年香西哲雲之を創す。

○松島遊廓 木津川の西、茨住吉の東に在り明治の初年之を開く、仲之町、高砂町三層或は四層の高樓を構へ華美を競へり、仲之町は櫻を中央に植列へ花時燈を点じ美觀を極む、遊客の種類こそ劣れ花柳街としては常市第一なり、東京樓最も廣大にして美人多しとかや松島橋詰に有名なる現長と呼べる鶏肉店あり、座敷庭園等數萬金を投じて數奇を凝し來客絶ゆる間なし。

○竹林寺 松島の西、九條に在り、淨土宗にして恕心山寶樹院と號す、創建は寛永年中にして、本願は香西哲雲、開基は教譽上人、本尊は惠心僧都の作の阿彌陀佛なり。

○天保山 安治川口と尻無川口との間に在り、天保年間安治川を浚深せし土砂を積みて成れり、渡海船の目標となれるを以て又目標

山とも云ふ、不動白色の燈臺あり。

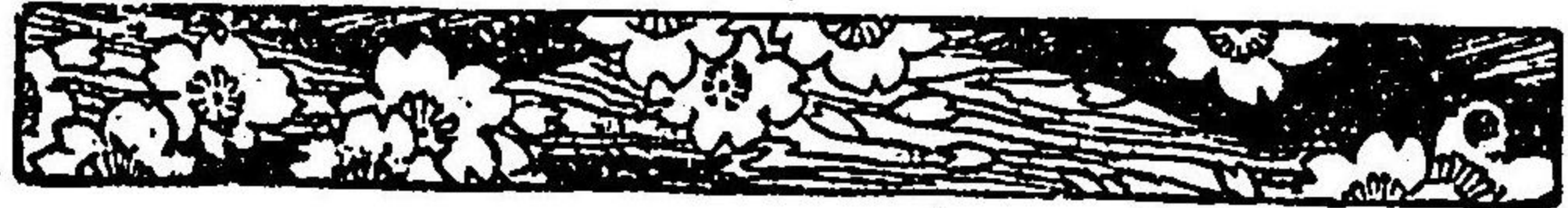
○大阪港 今築港中なり此港成れば大阪市の繁華大に舊に倍せむ、前に詳にしたればこれを贅せず

○川口波止場 富島町安治川の南岸に在り、瀬戸内其他九州通ひの漁船發着し、乗客雜沓す、此邊りには漁船問屋、廻漕店多く税關商船會社、商業學校支校、船舶司檢所等あり。

○外國人居留地 波止場の東に在り、雜居以來は川口町と云ふ、石造煉瓦造の家屋列り、街衢には柳樹を植る整正にして清潔なり。

○大阪府廳 川口町の東に川を問て、屹立す建築宏壯なり、明治七年渡邊昇氏の建つる所とす、西は正門にして東は裏門なり、その南に警察本部あり。

○府會議事堂 府廳の南隣に在り建築壯麗なる洋館とす。



○大阪市役所 府廳の北に對して建設す、假構にしてその正廳は地をトして建築すと云ふ。

六十

○野田の藤 安治川橋の北數町に在り、陰藤とて其名高し、足利義詮、豊臣秀吉嘗て遊覽せし勝區なり、林中に茶亭、割烹店あり。

○尊呂利庵 野田の藤の傍に在り、文祿年中豊公駕を扛げられし時休息せられし亭にして、藤の菴と號け側衆なる會呂利新左衛門に命じて額を書かせし亭なり。

○妙徳寺 野田の南、上福島に在り俗に五百羅漢と云ふ、禪宗にして鐵海和尚の開基なり、本尊は釋迦如來にして其周圍に五百羅漢の像を安置す。

○福島天神社 上の天神、中の天神、下の天神あり、菅公左邊の時立寄られし地なり。

○逆櫓松 福島にあり、今は枯幹を見るのみ、此樹下に於て源義經、梶原景時と逆櫓の得失を論せしと云ふ。

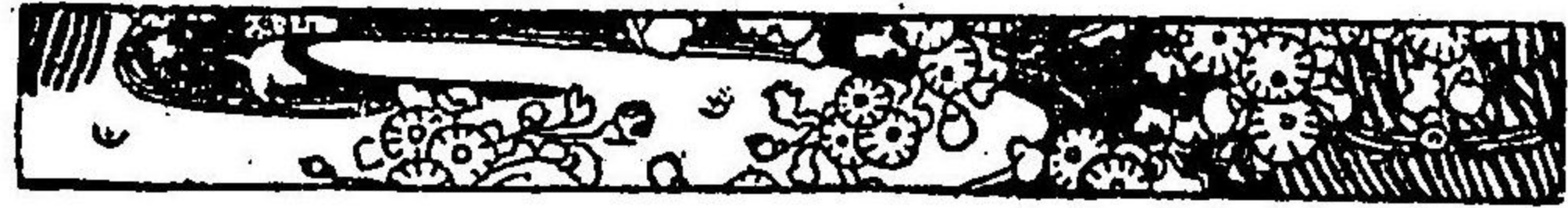
◎四近勝地

大阪市中の遊覽は略ぼ既にこれが順序を盡したれば、以下に四近の勝地を探討するの順路及び其の梗概を述べんとす。

先づ難波停車場より瀛車に投じて南行するときは天下茶屋、天王寺の一部に屬せり、南海鐵道の停車場あるところ、住吉街道に方れりこゝに遊園あり茶亭料亭多く、園内四時の花卉を栽えて風景頗る佳なり、豊公の遺趾として稱せらる。

住吉神社 住吉驛を距る二三町にあり、官幣大社にして古來津の國一の宮と稱す、底筒男命、中筒男神、表筒男命および神功皇后を祀

六十一





る、社殿は古雅壯嚴にして神威を仰ぐべし、社前に池あり半月形の橋を架す、これを反り橋といふ、毎年六月の初には御田植の神事あり、七月の末には大坂の神事あり、而して初卯の日には参詣者常に多し。

住吉公園 は社前一帶の松林にして、地域甚だ廣く老松影を垂れて風景絶佳なり。

高燈籠 は社より十數町の西にあり、毎年四月に至れば一里の間遠淺となるを以て、魚貝を拾ふもの群れ集へり、これを住吉浦の沙干狩といふ。

堺市 は堺の港に濱して船舶常に港内に輻湊し、百貨流通、街衢端正にして商業殷賑なり。

大濱公園 港の南に續ける地にして、前には茅渚の海を控へ海を隔



て、は淡路嶋を望み、風景の佳絶なることいふばかりなし、殊に茅海樓、一力樓、丸三等の料亭ありて、戸々に海水の温浴場を構へ、岸には海水浴場ありて避暑には此上なき所とす。

妙國寺 は日蓮宗にして市の材木町にあり、庭内の蘇鐵は殊に有名にしてその高さ三間餘、大枝二十三本あり、奇樹と稱すべきなり。

この他開口神社は社地廣寛にして賽人絶ゆることなく、南宗寺は紹鷗、利久等の墓あり、いづれも訪ふべきなり。

仁徳天皇陵 は一に大山の御陵と稱す、山陵の外堤千二百八十間その間に濠あり水鳥常に游泳す、兆域の廣き兆域中の稀に見る所なり濱寺公園 南海鐵道の濱寺驛を距る數町にあり、蒼松影を交へ碧波白沙を打ち、中に三五の旅亭料亭在して、海水浴には恰當の區とす、遠近の眺望極めて佳麗なり、この邊はすべてむかしの高師の濱

といふ、松露を産せり。
 牛瀧山 は葛城山に接するの一脈にして三層の瀑布あり、一は高さ二十五丈、二三は三丈内外なり、その山腹に大威徳寺あり紅葉の勝地とす、秋に至れば來賞するもの多し。
 これより泉南郡に入り和歌山に通ずるの間には。
 岸和田町ありて小繁華を稱し以て貝塚に連り、その海は小船を泊して物貨の集散に供し、貝塚には願泉寺ありて毎年の報恩講に殷賑を極め、犬鳴山には七瀧の勝ありて遊觀に妙に、その他日根の松原、蟻通神社、躑躅ヶ岡、深日の浦等ありていづれも名ありといへどもその詳細は著者の筆端に預りおくことせり。
 關西鐵道の線路によりて天王寺驛より東進するときは、平野驛に大念佛寺あり、融通念佛派の大本山として有名なる大寺なりしが、

數年前一夜の間に烏有に歸せしより、今や本堂の再建に努力せり。
 平野紡績會社 宏社なる建物にして紡績工場の大なるものとす。
 八尾驛より訪ふべきは枚岡神社にして、天兒屋根命、武甕槌神、經津主神を祭る官幣大社とす、大阪よりは四里半、毎年一月粥占の神事を執行して年の吉凶を卜すと云々。
 瓢箪山の稻荷社は驛より二里餘にあり、あぶりだしの辻占を以て名高きところとす。
 大信寺(八尾御堂)、顯証寺(久寶寺御堂)、勝軍寺(下の太子)などこの驛より行くべし。
 柏原驛はこゝより河南鐵道に分岐するところ。
 土師神社 道明寺村にあり、俗に道明寺の天神と呼ぶ、菅公を祀る境内廣く梅樹多し、附近に允恭、仁賢、仲哀、雄略四帝の御陵あり

玉手山安福寺 道明寺の東に玉手山の勝地あり、安福寺は尾州侯の歸依厚かりし寺にて境内清淨眺望絶佳なり、この邊松篁を産するこ

と多し。譽田八幡宮 同名の村に在り、應仁天皇を祭る、社の後に應仁天皇及び附近に安閑、清寧二天皇の御陵あり。

高貴寺 白木村平岩に在り、律宗役行者の開基といふ、山を神下山と云ひ佛法僧と呼べる異鳥棲めり。

叡福寺 石川寺といふ、太子村に在り、境内聖德太子の廟あるを以て俗に上ノ太子と稱す。

富田林町 河内南部の名邑にして東、高野街道にあたり西は堺市に至る、區役所、區裁判所、警察署、中學校等あり。また河内鐵道の停車場ありて交通便利なり。



狭山池 富田林の西、日置莊村に在り、崇神天皇の開かしめ給ひしものにして周圍三十三町、近傍數十村の田圃を潤すといふ。

金剛山 郡の東南に屹立せる高山にして楠氏の遺跡多し赤阪村より山頂まで四里あり、山嶺には金剛山寺あり、今は荒蕪せるその山麓に赤阪、千早二城趾あり。

錦溪温泉 三門市に在り、土地閑靜にして避暑に宜し。

觀心寺 川上村に在り眞言宗にして檜尾山と號す、嘗て楠氏の菩提寺たりしと東に楠公首塚あり亦訪ふべし。

柏原より王寺に至る、こゝより線路岐れて二となる、一は奈良を指して、一は高田、畝傍、櫻井に走る、而して南和線に連り、紀和線に接す、その遊覽の順序もおのづから一定せざれば、こゝには大和國に屬するものを擧げ、奈良より次第に述ぶるところあらんとす



奈良市 國中第一の都會にして、縣廳その他の官衙あり、銀行および會社あり、諸學校の設けありて頗る繁華なるが上に名所舊跡亦甚だ多く、旅客の來り集るもの實に少しとせず、武藏野、菊水樓、三景樓、明秀館、金波樓などは有名なるものとす。

春日神社 市の東にある官幣大社にして境域殊に廣く、社殿頗る壯觀なり、その燈籠の多きこと二千七百有餘實に著名のものとす、境内なる名勝はこれに止らずしてその重なるものを擧ぐれば。

大鳥居の東南に雪消の澤あり、社の上方に春日山あり、三笠山とは蓋しこの山の別名ならん、春日山の西北には嫩草山ありて満山悉く短草生ひ茂り、殆んど翠氈を布くが如し、その山麓は手向山なり紅葉の錦神のまたく点綴していと美しく。

二月堂 嫩草山の山腹にあり、二月堂の水取とて堂下の若狭井を汲



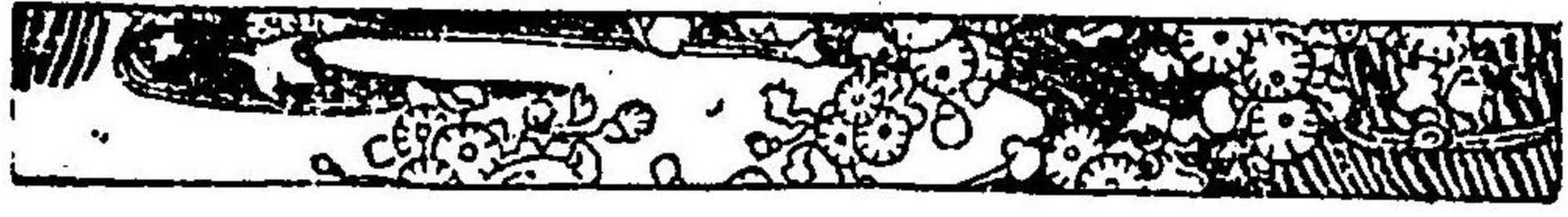
み法會を修することあり。頃は陰曆の二月七日頃なり。

東大寺 町の大字雜司にあり、聖武帝の時に創設せられたる巨刹にして、その本尊は世に奈良の大佛と稱するもの、伽藍の壯大偉麗なること中々に記し盡すべくもあらず。

正倉院 は舊東大寺の境内にあり、宮内省の管する所にして古來の珍品寶物を藏す、衆庶の漫りに拜觀するを得ざる所とす。

興福寺 は市の登大路といふにあり春日寺と稱せしもこれなり、境内なる南圓堂は殊に名高くして八角の寶形造りとす、その五重塔は南端に屹然として共に奈良の偉觀とす。

猿澤の池 興福寺の塔下にあるものこれなり、その周回は百八十六間といふ池中に鯉魚多く游泳し餌を投ずれば争ひてこれを拾ふその様いと可笑しく、納涼には極めて恰好の地とす。



この他市中に名ある勝地は、般若寺、十輪院、安養寺等にして、高
 圓山、燒春日社なども近傍の名ある所とす。
 唐招提寺 添下郡都跡村にあり南都七大寺の一にして、境内廣やか
 に堂宇數多く開基以來未だ火災に罹らざるの巨刹といふ。
 藥師寺 これまた七大寺の一にして同村にあり、寺域廣く寺塔伽藍
 森嚴なり、佛足跡石はこの寺の奇石とす。
 西大寺 も亦七大寺の一なり、同郡伏見村にあり規模甚だ大にして
 堂塔域内に多く、亦賽せざるべからざるなり。
 不動瀧 山邊郡上笠間村の山中にあり、高さ十五丈濶さ九尺にして
 素練を懸けたるが如く頗る勝景なり。
 法隆寺 舊名は斑鳩寺といふ、同名の停車場より行くべし、亦南都
 七大寺の一にして我が國未曾有の巨刹なり、境域もいと廣く堂塔多



く建ち列び、いづれも壯麗ならざるはなし、殊に東院といふは有名
 の舊跡にしてその美にして巧緻なるまたとあるまじき所なりとす。
 龍田川 王子の驛より行くべし、紅葉の名所たるは人の疾くに知る
 ところなり、然れども近來異説ありてこの川の果して歌中の龍田川
 なるやは疑はし。
 生駒山 は河内に跨る高山にして大和の方面には麓より上ること二
 十町にして寶山寺あり、寺内に多くの堂宇ありて遠近の賓人險を險
 とせずして登るもの多し。
 龍田神社 官幣大社にして立野といふにあり、天御柱命 國御柱命
 を祀る、社祠壯大にして正殿、拜殿以下の建造物も多し。
 信貴山 また河内に跨るの高山にして山上に朝護國孫子寺あり、龍
 野町より上るに坂路三十三町あり、堂には毘沙門天を安んじその他



堂宇猶多し、遠近より賽するもの險を厭はずして來り集れり。

廣瀬神社 は官幣大社にして法隆寺より十五町にあり、老杉鬱葱と

社殿を圍み、域内清潔に規模森嚴にして、實に官幣社たるの威嚴を

見るべし。

長谷寺 初瀬町の北泊瀬山にあり、本尊は十一面觀音にして世に長

谷の觀音といふは是なり、實に國內有數の名刹とす、その壯觀なる

今更に筆するまでもなし。

談山神社 之を東にしては日光の東照宮、これを西にして大和の談

山社と、世に既に定名を付したるは是ありて、社殿の宏壯華美に域

の廣濶幽邃なるはこの社を措て他に求むべからざるなり、社は多武

峰の中間にあり別格官幣社にして實に藤原鎌足の靈を祭れり、この

社に詣づるには櫻井驛より下りて鳥居跡にいたり、これより五十町

の坂路をたゞれば達すべし。

檀原神宮 畝傍驛より程近し、實に神武天皇を祀れり、この地北に

畝傍山を負ひ翠松その周邊を繞る、檀原の宮趾にして域内に正殿あ

り、拜殿あり、寶庫社務所その他建ち並び、清淨にして壯嚴なるこ

と官幣大社の唯一とするに愧ぢざるなり。

神武天皇御陵またこゝにあり參拜すべし。

常麻寺 は下田驛より行くべし、こゝは中將姫の古跡を以て名を知

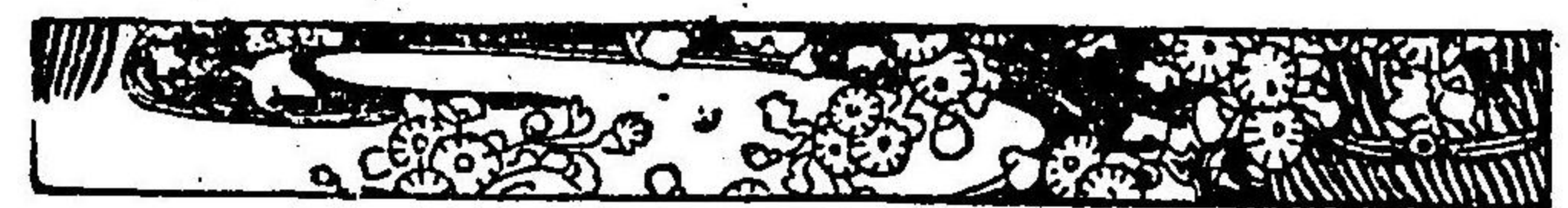
らる巨刹なりとす。

吉野山 は歴史上におゐての古蹟たるが上に、櫻花を以て夙に世に

知られたり、この山に上らんには八木街道よりするものと、高取山

の東よりするものと、多武峰の道によるものとおよび戸出驛よりす

るものとあり、通常は第四路を取りて歸路に上市に下るを可とす、



満山皆櫻樹にして花時の風景極めて絶佳なり、一目千本、奥の千本などあり、名にしあふ南朝三世五十餘年の行在所にしてその古蹟もいと多ければ遊者の訪ふに任すべし。

如意輪寺 は楠正行が「かへらじとかねて思へば梓弓」の歌を留めしところにして、吉野八大神の一と稱する勝手明神社より程遠からぬところにあり、小楠公警塚もその近傍にあり、この邊また櫻花の多きところとす。

十津川の温泉 一は東泉寺の温泉といひ、一は柳本湯といひ、一は新湯といふ、泉質佳なりといへども地の僻なるが故に浴する人も少し。

關西線の網嶋驛より乗車して尋ねるところ亦多し、而してその最なるものは、



四條畷神社 は飯盛山の西麓にありて小楠公を祀る別格官幣社たり社の西に正行卿の墓あり高さ三十五尺といふ、社域は高濶にして近くは攝河泉の野を望むべく、遠くは播丹および淡路嶋を眺むべし。

この社は明治二十二年の創建なり。

社より南十餘町を正行の高師直と戦ひたる古戦場といふ。

野崎觀音 は四條畷神社より八町ばかり東にあり、福聚山慈眼寺とて觀音を祭り、毎年五月の初めに供養式ありて参詣人群をなせり以上載するもの、外に名勝の傳ふべきもの多しといへども、愛を割きてこゝに少しく梅田驛より東し更に西して一は阪鶴線により、一は神戸の附近を尋ねるの案内を掲ぐべし、こゝに一言すべしはその案内するところ一々順序に依らざることは是なり、これは旅客の強ち順に従がはざるを知るが故に、攝の東北西に亘りて通じてこれを記せ

しなり、乞ふこれを咎むる勿れ。

總持寺 是三嶋郡三矢村にあり、西國巡禮二十二番の札所なり。

勝尾寺 是同郡豊川村にあり、西國巡禮二十三番の札所なり。

櫻井の驛 山崎街道の傍にあり、古松あり樹下に碑を樹つ、楠正成がその正行に遺訓して訣別せし所なり、俯仰低回するに暗涙の垂るゝを知らず。

水無瀬宮 は官幣中社にして後鳥羽天皇、土御門天皇、順徳天皇を合祀す、嶋本村字廣瀬にあり。

箕面山 豊能郡箕面村に屬す、大阪よりは六里餘あり、山に瀧安寺の古刹ありて本堂には辨財天を安んず、寺の北凡そ半里にして瀑あり、高さ十一丈餘幅三間雪を蹴り珠を轉じ、勝景比する稀なりこれを箕面の瀑といふ、満山楓樹に富み觀楓の客、避暑の客と共に多し

池田町 池田川の東岸に位して山間の小都邑とす、その酒、その炭は古來有名なるものとす。

久安寺 是同郡細川村にあり、大澤山安養院と號す、眞言古義の巨刹にして頗る有名なり、本堂、阿彌陀堂、護摩堂等建ち列なり名勝も亦少なからず、閑客は一度その勝を訪ふべきなり。

妙見山 是那の吉川村の東北に聳ゆ、村より阪路二十五町にして山上に達すべし、山上に堂あり妙見菩薩を安置す、世に能勢の妙見といふは是なり。

平野鑛泉 多田村平野の湯の町にあり、泉質は炭酸塩氣を含み腸胃加答兒、留飲、痺麻私斯等に効あり、近時漸く來浴の客を増し、浴室も隨て多きを加へたり。

中山寺 池田町より一里半ばかり中山停車場の近傍にあり、近郷無



此の靈場にして二十四番の札所なり、寺域廣裕にして城内の堂宇數多く勝景亦頗る多し。

寶塚温泉 阪鶴線通じてよりこゝに停車場を設く、地は高燥にして山を負ひ川に面し、風景の佳絶なるが上に泉質の能く各種病症に効あるを以て、來浴の人年と共多く、旅館割烹店等亦隨て盛んに山中の一繁華をなせり。

伊丹町 銘酒を以て著はれたる所、今伊丹の停車場ありて近郷の繁華を稱せり、野の宮祇園、黒染寺など町の有名なる社寺なりとす。

尼ヶ崎 は官線の神崎驛より一里にして、阪鶴線の支線こゝに通せり、町は海岸に沿ひて海陸の運輸に便に、市街亦殷賑なり。

大國主西神社 官線西の宮驛にあり西の宮の戎といふは是なり、大己貴命を祭る社地廣く攝末社多し、毎年舊曆正月十日は十日蛭子と

て遠近より來り賽するものその數を知らず。

廣田神社 は官幣大社にして廣田といふにあり、西宮驛より行くべし。

これより神戸に至るまでの間には甲山の奇勝あり、打出の濱は蘆屋川の口なる海濱をいひ、住吉神社は住吉驛にあり而して

岡本の梅林 は住吉驛より東北凡そ拾五町岡本村にあり、山を後にして陽に面し、山として谷として梅ならざるはなく、殊に遠眺に富めるを以て雅俗の來り訪ふもの多し。

神戸市 山を負ひて神戸港を擁し湊川はその中間を流れ、官線鐵道の終点にして直に山陽鐵道に連り、海陸共に兵庫に接して一層の便を與ふ實に五港の一として横濱に亞げるの貿易場たり、港内には大艦巨船數限りなく來往して實に關西の一繁華と稱すべし、市内の名



たゝるものを案内せんには。
 生田神社 三の宮停車場より四五町の北にあり、官幣社にして境内に梶原の井、飯の梅など有名なり。
 布引の瀧 は葺合村布引山の半腹にあり、雌雄の二瀑ありて雌は高さ七丈餘雄は十五丈餘、その奔下するさま頗る急激にして風景いと愛すべし、避暑には適當の地とす。
 諏訪山 市の山本通の北に聳えたる岡阜にして、上に旅館あり温泉あり、望觀の勝は遠く紀伊淡路より、須磨明石の海、住吉御影の濱などを一眸の中に集る真に神戸の一公園たるに愧ぢざるなり。
 湊川神社 は誰れも知る所の南朝の忠臣楠正成の靈を祀る別格官幣社にして、城内頗る廣く寄席、遊伎場、露店等を出せり、門の側には水戸黃門の建てたりし「嗚呼忠臣楠氏之墓」の碑あり。



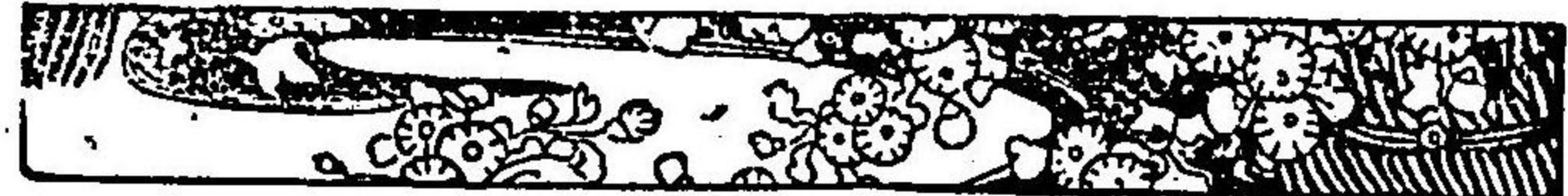
福原遊廓 は湊川堤防の北にあり、妓館娼樓の鱗次するところ、夜々の光景觀るべきなり。

湊川 は楠公の討死せし古戰場とて世に知らる、兩岸の堤上を遊園地となす、川は平時水なく唯だ霖雨に水流を見るのみ。

兵庫にて特に案内すべきは

眞光寺、來迎寺、清盛の塔、和田神社等にして、その最も名あり遊ぶべきは和田岬とす、兵庫港の西南なる、岬嶺の謂ひにして、風光明媚殊に愛すべし、燈明臺あり、和樂園あり、夏日の避暑には適好の地とす。

長田神社 兵庫の驛より西南十町ばかりにあり、事代主神を祭る官幣小社なり、世俗運の神と稱して毎月一日には參詣者頗る雜沓せり
 須磨浦 は須磨の停車場を下りたる邊をいふ、遠くは紀伊、阿波等



の山を望み、近くは淡路島を呼應の間に控へ、白沙青松一幅の油畫の如く、風光の絶佳なる古より既に定名あり、こゝに村雨松風磯馴味噌などを賣る名物たり、地は海水浴に適し且つ空氣の清潔なるを以て保養の爲め來るもの頗る多し。

◎京都のあそび

京都 三府の一にして皇居の在りし處、名所舊蹟の多き蓋し比なく日本の公園ともいふべし、その案内すべきものは固より小冊子の盡し得べきにあらざれば、その大要のみを筆して、他はこれを他日に期せん。

舊内裏 市の中央にあり、桓武天皇以來皇居たりし所にして、紫宸殿、清凉殿、常御殿、御學問所など猶舊規を存して、禁苑の外より

その藁を拜すべし、廓内凡そ二十五萬坪、今は御苑と稱せり、苑内に博覽會場、測候所、九條の舊邸などあり、旅客はかならず觀覽すべきなり。

仙洞御所 舊内裏の東なるをいふ、園池の幽邃にして閑雅なる、眞に人寰を脱するの思ひあらしむ、博覽會開設の當時は拜觀を許さるゝことあり。

三條大橋 加茂川に架すその長さ五十六間、里程元標のある所、橋はその柱を石にて圓く造り、欄干には青銅の擬寶珠を冠す、豊臣秀吉が増田長盛をして造らしむるもの、この邊は一帶に旅店多く、市街頗る繁昌せり。

新京極 は三條通寺町の東を南に入りし所なり、恰も東京の淺草門前か大阪の千日前の如く、興行物、遊伎場、飲食店その他櫛比して

熱鬧を極むるの第一とす。

四條大橋 鐵橋にして亦加茂川に架す、長五十四間といふ、橋の兩岸は妓館娼樓の在る所にして、西なるは先斗町といひ、東なるは祇園町とす、これに連なるは宮川町なり、この橋の北邊水中磧上には夏時ごとに假床を設け、飲食店および興行物などもありて、遊客を引きとめ涼を納れしむ、これを四條の夕涼といふ、京都の一奇觀たり。

八坂神社 祇園町の東端にあり、官幣中社にして素盞鳥尊を祀る、祭日は七月十七日と二十四日として、神輿の神幸あり又京都名物の山鉦を曳き出す、祇園會といふものこれなり。

圓山公園 八坂神社の北東山の麓をいふ、こゝには名たゝる一大櫻樹あり、その枝四方に垂れて花時の眺めは一入なり、花のころには

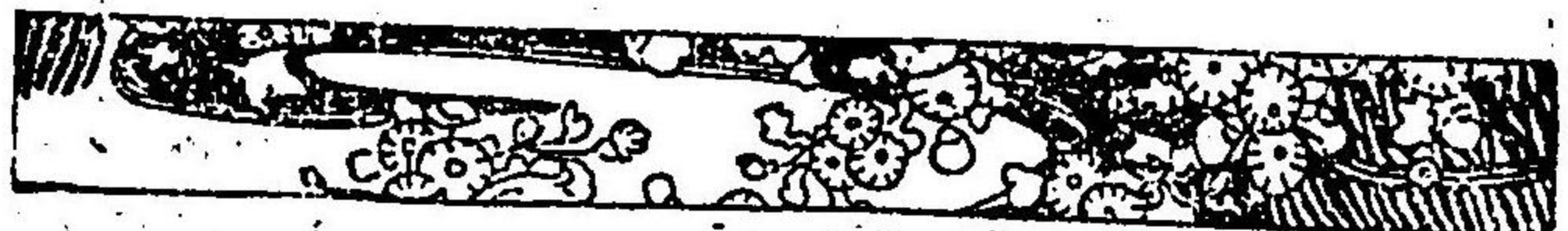


篝火を高く燒きて遊人の酔を活ふに任す、これなん祇園の夜櫻なり圓山の温泉 また名を得て浴客多し、遊びに厭きてこゝに浴し、浴し了りて浴樓の欄干に凭れながら、矚目するときには京都の市中は双眸の下に映じ、その快言ふに言はれぬなり。

圓山の東に隣りて長樂寺あり、歌に入りしところ、寺の上方には山陽頼翁の墓あり、こゝも亦眺望に佳なり。

智恩院 亦公園の東北に地を接す、華頂山とはこれにして淨土宗鎮西派の総本寺なり、寺域廣潤に堂塔伽藍壯嚴に、實に東山中の巨刹たり、寺に賽するものは請ふて各室を觀ることを得べし。

建仁寺 は細手通四條下るところにあり、禪宗臨濟派の巨刹とす、その南門の傍に摩利支天あり、諸人の參詣常に絶ゆることなし。この邊社寺甚だ多し、安井金比羅は建仁寺の東にあり、その又南に



双林寺あり、本堂の西方には西行庵及び西行櫻あり、庵の西に芭蕉堂あり、堂の北に大雅堂あり、いづれも風雅を以て世に喧傳せられしもの、その庵その堂いづれも閑雅にして遊人の杖を曳くもの今に尙多し。

高臺寺 は双林寺の南に隣り、豊臣秀吉の夫人北の政所菩提所を建立せしものなり、時雨の亭、傘の亭はいづれも寺の後山にありて名高く、又胡枝花は寺の名物として花時は遊人の來り訪ふもの殊に多し。

八坂の塔 高臺寺の南に五層の塔の屹然たるものこれなり、聖徳太子の草創に係るといふ、今は大にその觀を落せり。その東にあるは靈山なり、木戸孝允の墓その半腹にあり、又維新以來の戦死者を祭る招魂碑あり、こゝより四顧すれば京都の遠近は一眸の間に收る。



清水寺 靈山を下り清水坂を東に上れば達すべし、實に洛東第一の靈場にして音羽山と稱するもの是なり、名高き清水の舞臺といふは懸崖に架して遠く河泉の諸山を望むべく、音羽の瀧はその下に懸りて俗塵を洗ふべし。

西大谷 は西本願寺の廟所にして清水寺より西南にあたり亦洛東の佳境たり、門前に池あり蓮花を栽え、池上に眼鏡橋を架す、この南に

大佛殿方廣寺あり、こは豊臣秀頼が鑄造せし鐘の銘に、國家安康の文字ありて徳川家康を咒詛せしとて物議ありしところ、その南隣は豊國神社にして豊臣秀吉の靈を祭り別格官幣社たり、その遺骸を葬むる所の阿彌陀ヶ峰は大關坦と稱して去る明治卅一年に盛なる祭典を舉げ、修補をなせしは皆人の知るところ、社の前には耳塚あり。



その南には

三十三間堂あり、蓮華王院とはこれにして一千一体の觀音を安んず
こゝも亦是非に訪はでは京の咄を爲し得られぬなり。

京都博物館、妙法院等すべてこの間にあり、院は有名の巨刹にして
館は新に設けたるもの。

泉涌寺 はその後山に帝陵のあるを以て帝室の鄭重なる待遇を加へ
らるゝところ、月の輪の陵などは皆人の耳にするところなり。

これより歩を轉じて、市の東南部より更に案内せんに

東本願寺 は鳥丸通にあり、西本願寺と共に我國の最も宗徒に富
める本山にして、參詣の男女日に千を以て數ふべし、寺域の廣き伽
藍の大なる實に壯嚴を極むといふべし、七條停車場よりは二町を距
るのみ。



東寺 は教王護國寺の通稱にして東本願寺の西南にあり、五重の塔
は遠くよりこれを望むべし、その城内は三萬坪に餘れり。

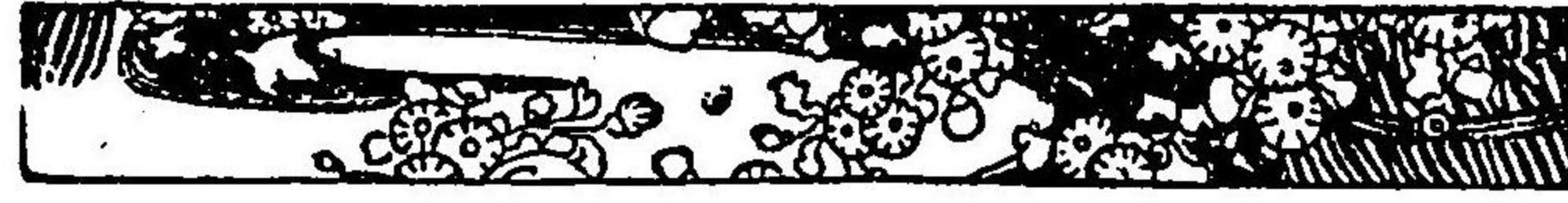
西本願寺 は本派本願寺といふ、城内甚だ廣く内に本堂、阿彌陀堂
をはじめ多くの建物あり、滴翠園は特に名を知られたるものにして

内に十勝を有して頗る勝景を稱す、亦東本願寺と共に有名の宗徒多
き寺なり。その南隣に

興正寺 ありて、結構布置もどより兩本願寺の比にあらずといへど
も、亦眞宗興正寺派の本山たるに差ぢざるなり。

本國寺 西本願寺の北に位し法華宗の本山にして寺域凡そ四万坪、
寺の寶物とする鴛鴦の曼陀羅は實に希世の珍たり。

島原 の遊廓は今漸く衰へて昔の様を存せずといへども、亦一遊
して當時の豪奢なる趣を想ひ合すも可なり、謂はゆる出口の柳は



今に衰々たり、この近傍に名を知らるゝものは壬生寺、空也堂などなり。

九十

佛光寺 は佛光寺通りの高倉にあり、什谷寺と稱して亦眞宗の一派を爲せり、佛光寺門跡とは是なり。

この他市中にて名高きものは、六角堂、本能寺、錦の天神、蛸薬師下御靈社、上御靈社、梨木神社等にして一々は之を記さず、御苑内の西中立賣に

護王明神 あり、和氣清麿を祀る別格官幣社なり、むかしは高雄山にありしを今の地に移せしなり。

相國寺 は禪宗五山の第二に位する巨刹にして、烏丸通の東今出川の北にあり、足利義滿の營せし所にして夢想國師の開基たり、寺域廣く老松佛閣を護りて森嚴の風自からに富めり。

北野神社 官幣社にして菅原道眞の靈を祭る、北野右近馬場にあり境内いと廣やかにして老松古梅を滿植し、社頭の風景佳絶にして賽人の多きこゝに勝るものあるべからず。

二條離宮 二條堀川の西にあり、舊二條城の謂ひにして尙ほ城樓を存して巍然たり亦市内の壯觀といふべし、これより二條橋を東に渡りて。

平安神宮 を拜すべしは明治廿七年の創設にして桓武天皇を祀る地は聖護院の東にあり城内廣大にして前に太極殿を摸し、碧瓦紅楹眼を眩せんばかりなり、この邊すべて舊内國勸業博覽會場たりしところ、東山を前にし疏水に臨み風景佳絶なり。

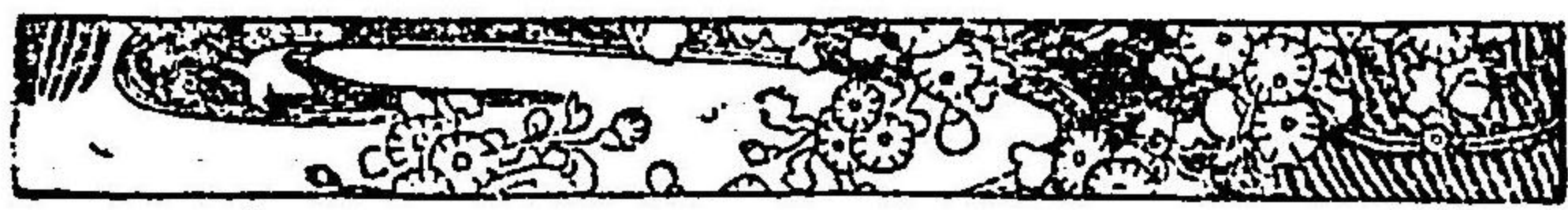
疏水運河 琵琶湖の水を引きて京に入りしもの、南禪寺の邊より西して加茂川の東岸に沿ひ伏見に達す、これを幹線とす、別に南禪寺



より山に沿ひて北し、淨土寺、白川村等を過ぎ加茂川を渡り堀川の上流に入るものこれを支線とす、眞に希世の工事にして明治十八年より同廿五年に至りて成れり、南禪寺の前に水利事務所あり、これにて水力を利用して電氣を發せしめ各種の用に供す、その偉觀見て驚かざるはなきなり。

青蓮院 粟田口にあり、明治廿六年中火災に罹りしを今は新營を竣れり、亦有名の寺院なり。

南禪寺 は粟田口の北にあり、龜山法皇の宸宮なりしを割きて佛寺とせられしものにして瑞龍山太平興國南禪寺と號す、寺域の廣くして幽邃なること希に見る所にして、中に金地院、天授庵等をはじめ多くの堂宇あり、實に有數の巨刹たりしが、數年前火災に罹りしを今や再建に汲々たり。この北隣に



永觀堂あり、その又北に若王寺社あり、楓樹を以て名高く殊に社には小瀑布ありて夏時の遊人常に多し。

如意ヶ嶽 一に大文字山といふ、毎年七月十六日の夜にその山嶺に大字形に火を点じ以て東山中の一偉觀とせり。

銀閣寺 は淨土寺町にあり、足利義政閑居の地たりしを後に寺とせしなり、義滿の金閣寺に擬して銀閣を造りしものと知るべし、寺中泉林の風光絶佳なるは一々悉くすべからず。

眞如堂 神樂岡の東南にあり、鈴聲山と號す寺域廣くして紅葉の候は遊人多し、幽邃閑雅の境はこの邊をや謂ふならめ。これより北へ二三町ばかりに

黒谷あり、淨土寺鎮西四個の一本寺にして法然上人居住の舊跡たり紫雲山と號す、寺域廣濶にして熊谷堂勢至堂等の堂宇多く、紫雲石

鑑懸の松等觀るべきもの多し、これより聖護院を北に進むときは京都帝國大學、第三高等學校などあり、それより尙ほ北に進むときは愛宕郡に入る。

以上は京都市中にしてこれより以下は郡部に屬す、その近きものを案内せんに、帝國大學より西北に

百萬遍あり、淨土宗四個本寺の一にして長徳山智恩寺と號す、これより一乗寺村に入れば

詩仙堂とて石川丈山の遺跡あり、風雅の士は訪はずして過ぐべきにあらず。

修學院離宮 山端の東にあり、この邊を修學寺村といふ、後水尾帝の離宮たりしより今尙ほ離宮とせらる、林泉の景は中々に筆すべからざるなり。



比叡山 は京都の東北に巍然として峙つ、桓武天皇奠都の際に京都の守護として伽藍を建てたる延曆寺これなり、登山の口は修學院よりするものと八瀬よりするものとあり、避暑の客登攀するもの夥し、山中に名所古蹟いと多けれど一々は記さず。

これより南し加茂川と高野川との落合ふ處に至る、これぞ糺川原にしてその森を糺の森といふ夏時の納涼には殊に佳なり、

この深緑の間にあるは

加茂御祖神社にして下加茂といふ、官幣大社にして社殿莊麗にその攝末社は數を知らず、毎年五月十五日は官祭にして祭儀すべて古様に擬し頗る繁盛にしてこれを加茂の葵祭といふ。

加茂別雷神社 は上鴨村にあり上加茂神社といふ、その壯麗は前者と伯仲せり、祭日は下加茂社と同日にして亦舊儀を存せり。





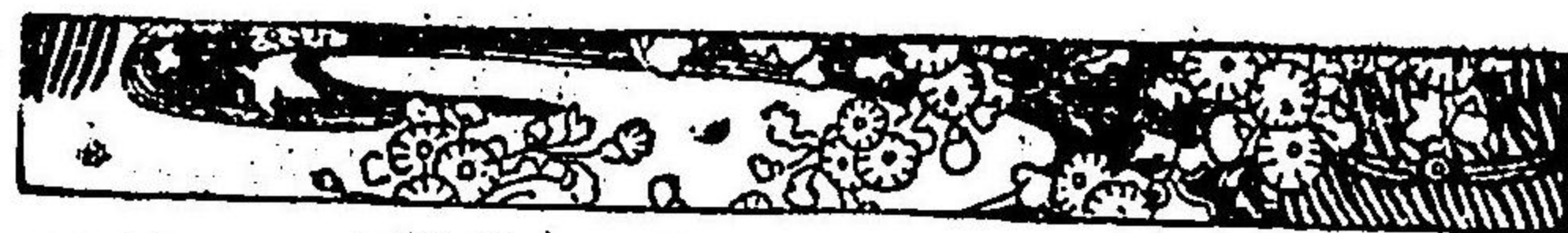
貴船神社 は鞍馬山より北に下る廿四五町の所にあり、官幣中社にして、こゝも名勝なかくに多し。これより船岡山を通り越して紫野に出づ、こゝには

大徳寺 とて有名の巨刹あり、寺内の眞珠庵は一休和尚の舊居とて名高し、これより少しく隔たりて、織田信長を祀るの

建勳神社 あり、別格官幣社にして明治二年の創設に係る、一賽して忠魂を吊ふべきなり。

平野神社 北野神社より二町ばかり西北にあり、境内櫻樹多くして平野の夜ざくらといふものこれなり。西北七八町に

金閣寺あり、足利義滿の築きしところにして鹿苑寺といふものはなり、境域廣潤にして林泉の妙は中々筆に盡しがたし、寺僧の案内を請へば彼の樟の一枚板天井、南天の床柱、萩の違棚等みな観るべし。



し。

梅尾 と檜尾とおよび高雄を三尾と稱して紅葉の名所とすることは世の夙に知る所、その梅尾は清瀧川に臨みて最も北位にあり、川に架する橋を白雲橋といひ、橋を渡れば高山寺あり、こゝより川下數町にして幽雅なる一區あり、これなん

檜尾 にしてその寺を西明寺といふ、楓樹は他の二ヶ所に比して少し、これより西南に下れば

高雄山 なり、こゝは三尾中最も楓樹に富み、全山悉く楓なりといふべし、寺を神護寺といふ、この邊一帶の景色は中々に數十葉の紙幅にて書きつくすべしにあらざる。

御室仁和寺 京都よりは一里半を隔つる西北にあり、眞言密乗の巨刹にして、域内極めて櫻に名を得たり、これより四町ばかり東には

龍安寺あり、その西には
 等持院あり、又龍安寺の南には妙心寺あり、その又近傍に双の岡、
 太秦廣隆寺等あり、太秦の西北には
 廣澤の池 として觀月の勝地あり、これより西北にあたり。
 大覺寺 ありて嵯峨院と稱し洛西の巨刹に算へらる、これより西凡
 そ三町に
 清涼寺 あり、その釋迦如來は赤旃檀の釋迦にして實に宇内無二の
 靈像なりと、この傍りに祇王寺あり、三寶寺あり、こゝより
 愛宕山に上るべし、山の頂を白雲山といふ、その眺曠は謂ふべから
 ざるものあり、山を下れば
 小倉山あり亦紅葉の名所なり、山に二尊院ありその東南五六町に野
 の宮あり、下嵯峨には名高き

天龍寺あり、夢窓國師の開基にして禪宗五山の第一に位す。
 嵐山 は大堰川の上方にあり、櫻を以て全國に知らる、唯だ櫻のみ
 ならず紅葉も亦名を稱えらる、京都市より三里今は流車の便ありて
 來往殊に便なり、名高き三軒屋といふ割烹店は川の北岸にあり、凡
 そこの山の勝景と稱するもの少なからず、その最なるは
 渡月橋にして三軒屋の下手より法輪寺の山下に達す、その他千鳥ヶ
 淵、戸難瀬の瀧、淺黄櫻、大悲閣、などにして、保津川の奇勝もこ
 のあたりであり、この勝は丹波の國において更に述ふべければ略し
 ぬ。
 西山の限なきの名勝を一々寫さんことは唯煩なるのみならず、實に
 多くの紙幅を費さるべからず、「さればこれより紀伊郡に入りてそ
 の稱を案内せん。



東福寺 トウフクジ は伏見街道一の橋の南にあり、その通天橋は紅葉の名所として今に名を得たり。

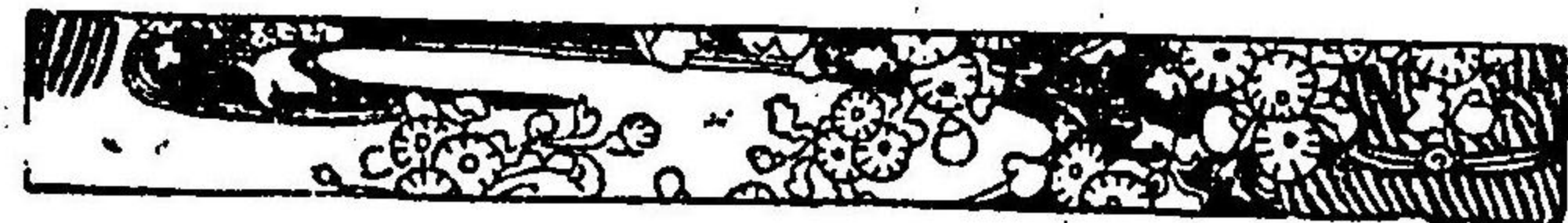
稻荷神社 イナリ 東福寺の南十餘町にあり官線の稻荷驛を下ればその鳥居前なり、官幣大社にして賓客いつも絶えず、例祭は五月七日にして神輿の神幸式あり、甚だ華美なりとす。

これより十餘町にして藤森神社あり、その東南に

桃山 ももやま あり伏見町の上方にして豊公の舊墟たるは皆人の知るところ桃あり殊に梅樹に富みて花時の遊客頗る多し。

伏見町 ふし見 京都よりは凡そ二里半、電気鐵道の通ずるあり、奈良鐵道の通ずるあり、大阪よりは淀川汽船の往復するあり、交通自在といふべし、町の東南隅にありて名あるは

觀月橋 くわんげつ なり、橋は淀川に架してその本名は豊後橋なりしと、觀月



の勝に富めるが故に觀月橋と通稱せしなり、夏時納涼の舟を橋下に浮ぶるも亦一興。

巨椋池 きゆうりく 周回四里半の大湖、葦菜を産し又蓮花を以て名ある、夏曉遊人の訪ひ來るもの實に多し。これより久世郡に入りて

淀町 よど は淀川および桂川の會するところ、一市街たりと雖も繁盛なりといふべからず、淀城趾、淀姫社など近傍にあり。

縣神社 あがた は宇治町縣の森にあり、宇治の縣祭りとして毎年五月の祭日には京阪地方よりの賽人織るが如く、實に有名の熱鬧をなせり。

平等院 びやうどう は世に名高き鳳凰堂のある所、堂はその本殿にして屋上に雌雄の鳳凰を安んず、その結構の美なる、裝飾の華なる蓋し全國をの比を見ざるものなるべし。

宇治町 うぢ 宇治川に臨みて市街をなす、螢火はその名の著はれしもの

傍らに名高き宇治の茶摘みあり、一入の樂みあり、菊屋なんといふ
旅店あり。これより程近きところに興正寺あり、山吹を以て名を知
らる。

黄檗山 宇治村にあり萬福寺といふ、實に黄檗派の總本山にして伽
藍堂宇の壯嚴なる稀に見るところその經營は多く支那風に摸したり
三寶院 醍醐村にあり、その本殿は豊太閤が賞花の蹟にして、林泉
の雅趣に富めり。その右方なるは

醍醐寺にして深雪山とは是なり、これより程遠からぬところに隨心
院あり、小町の井あり、勸修寺あり、田村將軍の墓あり、元慶寺あ
り、山科御坊あり、その他一々筆すべからざるなり。

山城の東北はまづ是迄として、更にその西南の最なるものを謂はん
には向日町の停車場附近より始めざるべからず。



大原野神社 は官幣大社にして大原野にあり、その西北に總持寺あ
りて名高し。

柳谷觀音 は海印寺村にありて眼病者の祈念するもの續々と相つ
ぐ。

長岡天満宮 は向日町驛より一里を隔つ、社頭に池あり、池邊に梅
あり櫻あり紅葉あり、殊に躑躅を以て稱せらる。

男山神社 は有名なる官幣大社にして、神殿の結構殊に壯麗を極む、
その雨樋は黄金を鍍したるものといふ、京都よりは五里、八幡町よ
り登るべし。



◎年中遊びの枝折

一月

○三日松卯住吉詣○十日今宮十日戎○廿五日天滿初天神道明寺初天神○雪見、北野凌雲閣附近の茶屋、産湯○十二月に次で銃獵の遊びによるし。

二月

○五日甲子木津大黒○十一月紀元節、大和橿原宮に賽すべし、又初午にて瓢箪山、其他各地の稻荷詣の客多し。○梅見、梅屋敷、新梅屋敷、西宮の岡本梅林、和泉の金熊寺梅園其他の梅見によし○銃獵には雁、鴨、兎等に妙なり。

三月

○一日より第五回勸業博覽會開場○彼岸詣は天王寺其他各所の寺院○彼岸櫻は隆專寺及び鶴滿寺の垂係櫻○桃見。桃山のあたり河内の稲田の桃林○摘草は天下茶屋および森の宮附近

四月

○三日大和畝傍御陵參拜○八月灌佛會○陀池の植木市○櫻見、櫻の宮、造幣局構内、新淀川堤防、大和の吉野山、京の嵐山其他○沙干狩。天保山沖、住吉及び堺の濱○菜種。浦江の附近、城東各地其他郊外到る處に黄金の花を観るべし。

五月

○月初に野崎親音詣○藤花。野田の藤の森、浦江の了徳院、北野の大融寺○牡丹。ニッ井戸吉助の牡丹園、池田近傍、大和の長谷寺○

躑躅。光立寺の庭園、長岡天神社内

六月

○三十日。住吉神社大祭○花菖蒲。浦江の了徳院、畝傍の陵池○螢狩。宇治の川瀬。

七月

○朝顔。博物館其他に露の乾ぬ間を競へり○蓮花。生玉神社の境外、住吉神社の蓮池、其他各所に多し、中にも巨椋の池最も名あり。

八月

○海水浴。天保山、堺大濱、濱寺、須磨および舞子○納涼。大川の舟遊、中の嶋劍先の納涼臺、天滿、天神の橋上○瀑布。箕面の瀑、布引の瀑、源氏の瀑○この月にて博覽會を閉づ。

九月

○秋の彼岸詣とて各寺院に賽する老若多し。

○秋草。萩は凌雲閣の庭園、天王寺及び寺町各寺院の庭園、○觀月東は森の宮、産湯、西は天保山、元居留地等南は眺望閣、夫婦池等北は凌雲閣、中の島公園其他にて、堺の濱など最も可なり。

十月

○葎狩。關西鐵道線にては玉手山、信貴山、阪鶴線にては池田及び三田附近その他各所に多し、この月十五日よりは獵銃に遊ぶも亦一興。○この月十九日より誓文拂とて市中殊に喧囂を極め、遠近の客集ひ來れり。

十一月

○三日は天長節○紅葉狩。箕面山、大和の龍田川、京の高雄及び其附近

十二月

銃獵の好期節なれば、近郊に遊びて獲物を争ふの客多し、觀覽としては郊外に枯野を探ぐるも亦一樂たるべし。

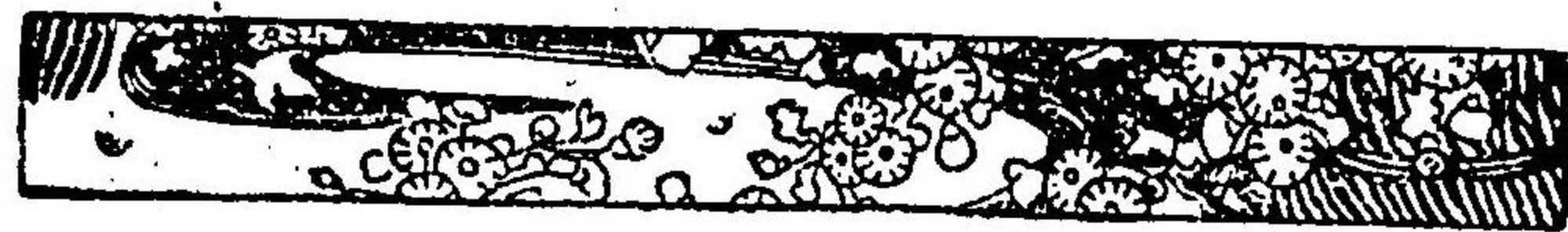
鐵道諸法
令 抜 奉
乗客の注意

- 一 乗車券を有する者は列車中座席の存在する場合に限り乗車することを得(鐵道營業法第十五條)
- 一 乗車前旅行を止めたるときは運賃の拂戻を得ると雖ども乗車後旅行を中止するときは拂戻を請求することを得ず(鐵道營業法第九條)
- 一 旅客は左の所爲なしたるときは貳拾五圓以下の罰金に處す(鐵道營業法第三十三條)
 - 一 列車運轉中乗降したるとき 二列車運轉中車輛の側面にある車扉を開きたるとき 三列車中旅客乗用に供せざる箇所に乗るとき
- 一 乗車券を所持せず又は無効の乗車券を以て乗車し若くは檢査の際乗車券の呈示を拒み又は取集の際之れを渡さざる旅客に對し鐵道



は普通運賃二倍以内の割増運賃を請求することを得

- 一 乗車券を買受くる暇なく鐵道係員の許諾を得て乗客したる旅客は貳拾錢以内の増拂をなすべし
- 一 鐵道係員通行人等に危険を與ふる虞ある物品は猥りに之れを投棄すべからず(鐵道運輸規程第二十九條)
- 一 列車が停車場外に於て停止するときは假令長時間に涉ると雖ども鐵道係員の許諾を得るにあらざれば下車することを得ず(鐵道運輸規程第三十一條)
- 一 旅客は随意に劣等車に便乗したるときは運賃差額の拂戻を請求することを得ず
- 一 旅客は改札前にありては其買受たる乗車券を他級の乗車券と交換し又は返還して運賃の拂戻を請求することを得但乗車券發行當日に限る(鐵道運輸規程第十七條)
- 一 旅客乗車中座席を離れ特に之を占置かざるときは他人之を占取す



るも苦情を述ぶることを得ず

一 手荷物を托送せんとする旅客は乗車券賣出時間内に其手續をなすべし若し列車出發時刻前五分前に之が手續をなさざるときは次回の列車を以て運送せらるゝも故障を述ぶることを得ず(鐵道運輸規程第四十一條)

一 託送手荷物は其到達停車場に於て之が引渡をなすべし尤も時間其他取扱上差支なき限りは旅客の請求に應じ中間驛に於ても之が引渡を爲すべし(鐵道運輸規程第四十五條)

一 手荷物は到達後二十四時間内に引取らざるときは保管料を請求せらるべし(鐵道運輸規程第四十七條)

○鐵道乗客心得

三十四年三月一日調査

○東京神戸及高崎直江津間 五十哩以上の切符所持の者は左記の驛に限り下車し再び乗継ぐことを得

横濱、大船、藤澤、大磯、國府津、御殿場、三島、沼津、興津、静岡、濱松、豊橋、岡崎、大府、熱田、名古屋、一ノ宮、岐阜、大垣、米原、敦賀、武生、福井、小松、金澤、彦根、草津、馬場、大谷、京都、大阪、三ノ宮、神崎、神戸、大宮、熊谷、高崎、磯部、横川、輕井澤、小諸、上田、長野、直江津、高岡

五十哩以上の切符通用期限左の如し

五十哩以上の乗車切符通用期限は五十哩以上百哩未満は二日、

百哩以上百哩未満毎に一日を加ふるものとす

一 輕井澤に於て乗換を要せず高崎直江津間直行す

○急行列車

○午前六時二十分及午後六時新橋發神戸行○午前六時及午後六時神戸發新橋行

右の列車には四十哩以上に發する驛の外乗客及小荷物の取扱をなさず但し左記各驛相互間(途中間驛)は此限にあらす

新橋横須賀間、品川横須賀間、國府津沼津間、沼津静岡間、馬場大阪間、京都大阪間、大阪三ノ宮間、大阪神戸間

○上野青森及塩竈間 五十哩以上の切符所持の者に左記の驛に限り下車し再び乗継ぐことを得

新宿、大宮、熊谷、高崎、前橋、桐生、小山、宇都宮、西那須野、黒田原、白河、郡山、福島、岩沼、仙臺、岩切、塩竈、松島、一ノ關、平泉、盛岡、尻内、青森、土浦、友部、笠間、水戸、關本、勿來、湯本、平、原ノ町、中村

五十哩以上の切符通用期限（東京神戸間に同じ但し三百哩以上四百哩未滿五日四百哩以上六日）

○神戸下ノ關間

五十哩未滿一日、五十哩以上百哩未滿二日、百哩以上は百哩毎に一日を加ふ

但し切符發賣當日を併算し又社線と他線との連絡切符には相互

の哩數を通算す

五十哩以上の切符を所持せらるゝ乗客は姫路、岡山、笠岡、福山、尾道、糸崎、廣島、己斐、宮島、岩國、柳井澤、徳山、三田尻、小郡、下の關の十五驛に限り下車し通用期限内再び後の列車に乗継ぐを得べし

但し官線と連絡の切符を所持せらるゝ乗客は右十二驛の外神戸兵庫の二驛にても同様下車するを得べし

前記十四驛外の途中驛にて下車せらるゝときは最初の乗車驛より下車せらるゝ驛迄を一區域として更に該下車驛より着驛迄を一區域として此二區域間に對する賃錢を併算し乗客所持の切符賃錢より超過せざれば其儘下車を承諾すと雖も若し之に超過せば其差金を申受くべし

五十哩未滿の切符所持の旅客は途中何れの驛にても下車し切符通用期限内は再び便宜の列車に乗継ぐ事を得

○日本鐵道會社線 乘車賃金三等は百哩まで一哩に付凡そ金壹錢四厘、百哩以上は一哩毎に凡そ金壹錢貳厘二等は百哩まで一哩に付貳錢壹厘、百哩以上壹錢八厘、一等は百哩まで三錢壹厘五毛、百哩以上貳錢七厘とす即ち本表掲ぐる所の賃金は單に上野又は青森等其線路兩端よりの場合を示したるものなり

○旅客携帶品一時預入れの手續其他

○預り品は一個に付一日毎に左の賃金を要す
一重量三十斤以下一日金二錢 一重量三十斤以上百斤迄 一日金四錢 一自轉車又は小兒車一日に付金五錢
○預り品は預け入の日より一ヶ月を限りとし紛失毀損に對する賠償額五拾圓以内とす
但し爆發又腐敗し易きもの、他品を汚損する虞あるもの、荷拵不完全のもの、重量百斤以上のもの又は莖包其他長大のもの等は預け入るゝを得ず

○貨物速達便運送規定

一貨物速達便は貨物の個數により計算し一個五十斤若くは五十斤未満毎に左記の賃金なり
但し樽物俵物の類にして斤量に一定標準あるものは斤量の端數を切捨て取扱ふことあるべし
哩程 百哩迄 百五十二百哩 二百五十三百哩 四百哩 五百哩
賃金 四十錢 四十五錢 五十錢 五十五錢 六十錢 七十錢 八十錢
二左記の貨物及之れに類似のものは貨物速達便により運送をなさざるものとす
一 生絲、繭、絹布、生皮等、麥稈真田、燈心、葉、葉煙草、織物、器械、寒天、木製箱類、小兒車、干糸瓜、帽子類、紙細工品、生鳥、生獸

但し時宜により所定賃金の倍額を徴収して取扱ふことあるべし
一危険品 一死體 一貴重品取扱となすべき物品
一重大の物(品一個の量二百斤以上若くは才積四十立方尺以上の物品)

三貨物速達便は鐵道作業局運輸部の定むる區域内に於ける受取人住所に配達するものとす

但し區域外に配達するときは配達料を徴収す

四貨物速達便による貨物は荷造を完全にし且發送人受取人の住所姓名を明瞭に記したる木札二枚を附し托送すべし

五貨物速達便列車及貨物速達便の取扱を爲す停車場は鐵道作業局運輸部に於て時々之を定む

○鐵道にて貨物運送の手續概要

○鐵道にて貨物を運送せんとするものは貨物の等級に依りて運賃の

相違あること、又貨物を澤山送るには貸切車ありて運賃の極めて低廉なることを知らざるべからず

○貨物の等級は一、二、三級及高級品ありて之に級外品を加ふれば以上五級ある都合なり其の一級品は何々にして二級品は何々と云ふことは一二頁の紙上に記載し難きに依り其の詳細なることは官私鐵道各驛の貨物掛に就いて聞くべし

○一級品(穀物、肥料、鹽、其他)の運賃は目方百斤に付一哩金二厘

○二級品(砂糖、鹽魚、紙、其他)の運賃は目方百斤に付一哩金三厘

○三級品(陶器、煙草、酒、其他)の運賃は目方百斤に付一哩金四厘

○高級品(衣服、藥品、蠶卵紙、其他)の運賃は目方百斤に付一哩金六厘

○級外品(駕籠、車、金銀器物、其他)の運賃は品物に依て差あり

○手荷物賃金は必ず前拂たるべしと雖ども發驛にて受取らざる場合に於ては中間驛或は着驛にて受取るべし



○小荷物及其他の物品は托送せんとする列車の刻限より少くも二拾分前に「ステーション」の小荷物取扱所に渡すべし否らざれば其次の列車にて運送する事あるべし

○貴重品の運送は特に定めたる列車に限り取扱ふものとす故に托送者は「ステーション」に就き其時間等を問合すべし

○貴重品托送者は列車出發時刻より少くも三十分前送込「ステーション」の小荷物取扱所に現品を持参すべし

里程	旅客手荷物及小荷物運賃	
	無賃制限外 手荷物 最低賃金	旅客列車にて旅行する行商並呼買商の持所する商品 但緩急車にて運送するもの
二十五哩迄	一斤に付 一錢	廿五斤迄 目方 五十斤迄 目方 百斤迄 目方
五十哩迄	一錢五厘	卅五斤迄 目方 五十斤迄 目方 四十五錢
百哩迄	二錢	右に掲ぐる賃金は運送里程五十哩迄目方百斤迄のものに限る



里程	日本郵船會社定期船航路及賃金	
	普通小荷物 最低賃金五錢	編細工、漆器、造花帽子、輕き家具等の如き損じ易く又は嵩高の物 最低賃金十錢
二十五哩迄	一斤に付 一錢	一斤に付 一錢
五十哩迄	一錢五厘	二錢
百哩迄	二錢	三錢
百哩以上五十哩若くは五十哩未満毎に	五同	四同

備考 手荷物及小荷物は旅客列車にて運送するものあれば荷物運送の最迅速なることと郵便物と幾んど同一なり今記載する所は専ら官設鐵道の規則を主として次に諸會社の同を併記す

地名	發着時	航程	賃金
神戶	第一日午	一等	同
神戶	同上	二等	同
神戶	同上	三等	同
神戶	同上	一等	同
神戶	同上	二等	同
神戶	同上	三等	同

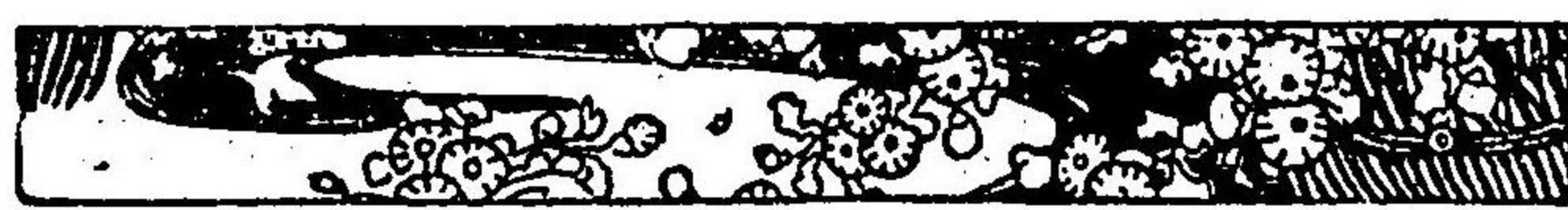
ヨ 戸 神
横濱 後發 第三日午前 五日午前
尋湊 大 〇〇 〇〇



航復廻東リヨ樟小				廻東航往リ		
神戸	横濱	萩濱	函館	小樽	函館	萩濱
着第廿一日午前	着第廿六日午後	着第廿五日午前	着第廿三日午後	着第廿一日午後	着第廿七日午後	着第廿六日午前
三三〇	三六〇	三六〇	三三〇	三三〇	三六〇	三六〇
洋食付	洋食付	洋食付	洋食付	洋食付	洋食付	洋食付
同	同	同	同	同	同	同
三〇〇	三〇〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
三〇〇	三〇〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
三〇〇	三〇〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇

路航廻西リヨ戸						
小樽	函館	能代	土崎	酒田	佐田	新津
直江津	伏木	敦賀	境	下ノ関	尾ノ道	尾ノ道
三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇

○西廻りの復航は載せず



間崎長濱横				線 灣 臺			
長崎	下關	神戸	横濱	基隆	門司	神戸	地名
三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	發着時
同往復	同往復	同往復	同往復	同往復	同往復	同往復	毎月定期期日
三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	賃金
三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	
三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	

復航は基隆を毎月十日二十日廿五日および五日に發して往航の期程と同じく五日間に神戸に發するものは大の月は一日に着船すべし

間島原小濱横			
硫黄島	母島	父島	鯉島
青島	鳥島	八丈島	三宅島
三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
三三〇	三三〇	三三〇	三三〇

○本表の外、青森室蘭の間、横濱四日市の間、小樽稚内の間、函館岩内の間等その航路多しと雖も、暫く普通のものに揭げて他を略せり

○日本郵船の航路は多く海外に往復せり、巻末に再掲すべし



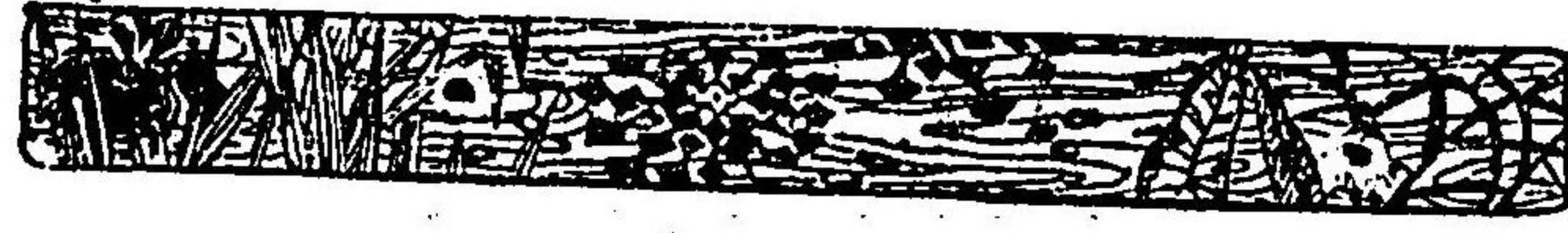
線備讃		線關									
航復	航往	馬關	門司	三田尻	徳山	柳井	久賀	岩國	宮島	宇品	字
玉島	多度津	若前	若前	若後	若後	若後	若後	若後	若後	若後	若後
後	後	前	前	後	後	後	後	後	後	後	後
七時	七時	六時	六時	五時	五時	五時	五時	五時	五時	五時	五時
日第一	日第一	日第三	日第三	日第三	日第三	日第三	日第三	日第三	日第三	日第三	日第三
一室	一室	二室	二室	二室	二室	二室	二室	二室	二室	二室	二室
〇復航も亦同じ	〇復航も亦同じ	仙崎	馬關	門司	多度津	神戸	大阪	初日	大阪より	萩	須佐
一日隔てに出船せり、大阪後三時に發す、	一日隔てに出船せり、大阪後三時に發す、	二日	二日	二日	二日	二日	二日	二日	二日	二日	二日
		境	鷹	温泉	津田	四日	四日	四日	四日	四日	四日
		二時	二時	二時	二時	二時	二時	二時	二時	二時	二時



馬阪大									
吳音	竹忠	尾三	柳道	多度津	高松	神戶	大阪	往	航
發着	發着	發着	發着	發着	發着	發着	發着	發着	發着
後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前
〇二時	〇二時	〇二時	〇二時	〇二時	〇二時	〇二時	〇二時	〇二時	〇二時
日第二	日第二	日第二	日第二	日第二	日第二	日第二	日第二	日第二	日第二
一室	一室	一室	一室	一室	一室	一室	一室	一室	一室
〇大阪馬關の	〇大阪馬關の	〇大阪馬關の	〇大阪馬關の	〇大阪馬關の	〇大阪馬關の	〇大阪馬關の	〇大阪馬關の	〇大阪馬關の	〇大阪馬關の
間は兩地よ	間は兩地よ	間は兩地よ	間は兩地よ	間は兩地よ	間は兩地よ	間は兩地よ	間は兩地よ	間は兩地よ	間は兩地よ
り毎日一回	り毎日一回	り毎日一回	り毎日一回	り毎日一回	り毎日一回	り毎日一回	り毎日一回	り毎日一回	り毎日一回
出船す、大	出船す、大	出船す、大	出船す、大	出船す、大	出船す、大	出船す、大	出船す、大	出船す、大	出船す、大
阪よりをる	阪よりをる	阪よりをる	阪よりをる	阪よりをる	阪よりをる	阪よりをる	阪よりをる	阪よりをる	阪よりをる
ものは茲に	ものは茲に	ものは茲に	ものは茲に	ものは茲に	ものは茲に	ものは茲に	ものは茲に	ものは茲に	ものは茲に
示すが如く	示すが如く	示すが如く	示すが如く	示すが如く	示すが如く	示すが如く	示すが如く	示すが如く	示すが如く
馬關より	馬關より	馬關より	馬關より	馬關より	馬關より	馬關より	馬關より	馬關より	馬關より
するものは	するものは	するものは	するものは	するものは	するものは	するものは	するものは	するものは	するものは
午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時
に發船して	に發船して	に發船して	に發船して	に發船して	に發船して	に發船して	に發船して	に發船して	に發船して
、第三日の	、第三日の	、第三日の	、第三日の	、第三日の	、第三日の	、第三日の	、第三日の	、第三日の	、第三日の
午前七時に	午前七時に	午前七時に	午前七時に	午前七時に	午前七時に	午前七時に	午前七時に	午前七時に	午前七時に
大阪に着す	大阪に着す	大阪に着す	大阪に着す	大阪に着す	大阪に着す	大阪に着す	大阪に着す	大阪に着す	大阪に着す
るものとす	るものとす	るものとす	るものとす	るものとす	るものとす	るものとす	るものとす	るものとす	るものとす



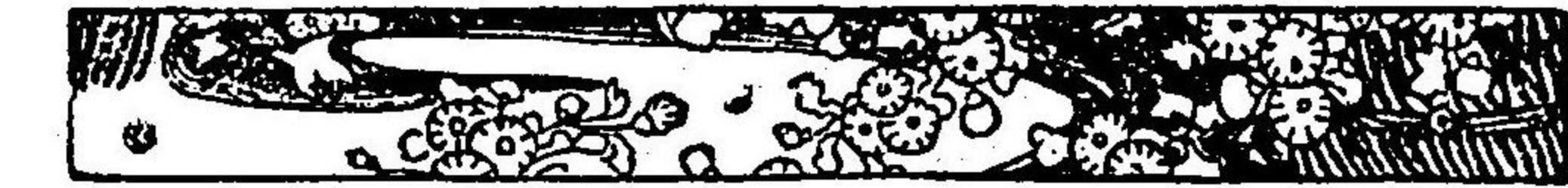
金	錢壹拾金	錢拾金	
同難 札波 の村 辻 四側 町迄	櫻網大谷内日千南松幸幸朝九南 の島手町久日本海島榮町日條北 宮停御寶橋前橋東橋幸福村安 車門寺町車橋雲橋福橋五丁川 場町町車橋橋橋橋橋橋橋二 迄	農九太淡千九網 人左之町代條島 助衛停崎村 谷橋門車橋二 町橋橋場橋丁 目橋	
金	錢四拾金	錢參拾金	錢貳拾
材三南 木軒北 置家傳 場紡法 町織村 迄	堀森清高今 留の烟林津宮 宮の村谷村 宮村町ク 辻	廣北高難岩南六 小路桃津波崎安野 町谷坂西鴨新治家 町町坂目橋田川 三 丁 目	長城內道日 柄内安預預橋 村司堂堀堀一 令部寺清清丁 部町津津目 谷 町
錢貳拾貳金	錢八拾金	錢五拾	
櫻 島	天保山 迄	柴新二榮四市今難三春 島喜軒茶四阿木波軒日 田茶屋王新島家出 田屋寺寺田新島家 新田	
		木津村幽泉寺 商樂俱樂部 天王寺裁判所 藤梅屋敷 騎兵隊營所 東雲町	



五金	錢四金	錢三金	梅田停車場人力車賃銀表
寺浪高撞犬常堂 花麗木齋安島 橋橋橋橋橋橋 通▲丁目	同北入北堂同土上 高野日區島肥佐福 野村利川島佐島 切不助大後堀川 寺明笠大江橋筑 江橋	曾於會堂上 根初根島 崎崎崎 村神橋 役場	
錢七金	錢六金	錢	
三天天八平本阿太 番滿滿軒野町波阪 六夫橋橋家橋三助 齋婦寺御政筋 橋橋町筋	北天天神高平京西 南神橋橋野町野北 浦シリ寺橋二心齊 江村稻町町丁齊 村荷	同北野村萬 九階萬歲橋	
錢九金	錢八金		
西內久長八佐高 成本賀堀幡野盛 郡那寺橋筋屋屋 海四谷橋橋橋橋 老四町橋橋橋橋 江丁目橋橋橋橋 村	西天造內本心間江 成南幣幣平野野野 郡橋局野町町野野 海四町野野野野 老四町野野野野 江丁目野野野野 村	新堀慮分橋 宮島國津橋 本田二丁目 西區梅本町 江野橋 間野橋 本野橋 造幣局 天南橋 西成郡	
		南北安治川一丁目迄 九條村茨佳吉 松島常盤橋 高橋 佐野屋橋 八幡筋橋 長堀橋 久賀橋 內本寺橋 西成郡十三村	

湊町停車場人力車賃銀表

金	錢四金	錢三金
立裏廻突喰屋橋 安堂寺町堺筋 幕の谷松屋町迄	沙見橋より瓶橋 問屋橋東西 難波鴨橋 東難波 南海停車場 日本橋赤真筋 日本橋筋清水町迄	戎橋筋溝の側迄 清水町心齋橋筋 隆平橋筋 幸橋 難波叶橋
金	錢六金	錢五
農人橋松屋町迄 本町堺筋 京町柳千秋橋	生玉神社 下寺町相阪 今宮村 前難波下渡場 松島橋 阿波座岡崎橋 北久太郎町堺筋 安堂寺町松屋町迄	玉造橋より日吉橋 木津村 廣田神社 日本橋三丁目 下寺町御藏跡町
錢	八金	錢七
西濱町	岩崎新田 茨住吉九條 難波橋南詰 淀屋橋南詰 平野橋 大手松屋町 農人橋御藏筋 安堂寺町上本町 天王寺綿屋町 上本町基の谷迄	江の子島 松島東雲橋 攝津紡績 幕の谷谷町 天王寺裁判所



拾金	錢九金	錢
大手谷町筋 北安治川上通一丁目 中之島七丁目 曾根崎新地 老松町長池 梅田停車場及堂島一 築地 天神橋南詰迄	高麗橋松屋町迄 北濱難波橋 中之島三丁目 土佐堀川南 宮島二町 本田町二丁目 天王寺庚申 清堀村、居留地 内本町谷町 上本町一丁目	高麗橋御藏筋 天王寺停車場 南安治川二丁目 三軒家紡績
拾金	錢壹拾金	錢
京橋南詰 同二軒茶屋 玉造停車場 天満西寺町迄	島町谷町 天満老松町近傍 南安治川三丁目 曾根崎村 北安治川蘆分橋 北安治川三丁目	城內 天満橋南詰 天満神社 玉造稻荷前 上下福島村 曾根崎村
錢四拾金	錢參拾金	錢貳
源八渡場 櫻の宮 天満停車場 片町停車場 湊町新田 森の宮 北野九階迄	北安治川三丁目 北野九階迄 天満夫婦橋 堀川監獄署 造幣局 網島及相生町 片町野田橋 北野村太融寺 天満橋筋寺町迄	野田村藤名所 北安治川一丁目 天満真門筋



難波停車場人力車賃銀表

五金	錢四金	錢三金
高麗橋東南 順慶町堺筋西南 新町橋以南 長堀橋南詰迄	住吉橋東南 日本橋四丁目 高津新地 湊町停車場 二ツ井戸松屋町 清水町堺筋西 難波橋橋迄	日本橋南詰迄 大黒橋東 難波出口 日本橋二丁目 三番踏切
七金	錢六金	錢
攝津紡績 靱水代渡 農人橋西詰 立賣堀高橋迄	幸町五丁目 清水町 久太郎町堺筋西南 順慶町東堀 堀江鐵橋迄 高津梅ヶ辻 新町間屋橋東	今宮木津 清水町東堀 下寺町堀留 幸町沙見橋
金	錢八金	錢
難波場新橋 北濱堺筋 高麗橋西詰迄	西濱町 江戶堀阿波殿橋 南北桃谷 榎下の橋以東 高麗橋堺筋西 松島及府廳 農人橋通谷町 備後町東堀	谷町安堂寺町西 阿波座阿崎橋南詰 四天王寺及梅屋敷 備後町堺筋西南 京町堀紀の國橋迄



錢拾金	錢九
榑地川口居留地 三軒屋 土佐堀橋 川口波止場 玉造東雲町 若松町浪花橋筋 堂島田養橋 九條四丁目橋 大手谷町 中の島五丁目橋	本田通一丁目 九條二丁目橋 江戶堀西北橋 清堀村上本町 桃山産湯橋 天王寺河堀口 茨住吉 内本町谷町
錢貳拾金	錢壹拾金
曾根崎 下福島 今木泉尾新田 天滿筋寺町 北安治川一丁目橋	梅田驛迄 曾根崎新地 福島淨正橋 南安治川二丁目 北安治川上通一丁目 堂島大橋 天滿天神社 同老松町 玉造稻荷社 中の島七丁目 八軒屋
錢四拾金	錢參拾金
湊屋新田 北安治川三丁目 天滿橋追分 天滿池田町 片町停車場 櫻之宮 北野九階迄	片町迄 川崎村 網島村 造幣局 堀川監獄署 北野夫婦橋 南安治川三丁目 北安治川二丁目 藤名所野田村

旅行日記

訪 往						月 日 (曜日) 天氣 () 寒 暖 ()
訪 來						
所 泊 宿						
食中						
入 收		出 支				
		圓 錢 厘		圓 錢 厘		
總計				總計		

旅行日記

訪 往						月 日 (曜日) 天氣 () 寒 暖 ()
訪 來						
所 泊 宿						
食中						
入 收		出 支				
		圓 錢 厘		圓 錢 厘		
總計				總計		

旅行日記

訪 往		月 日 (曜日) 天氣 () 寒暖 ()
訪 來		
所 泊 宿		
食中		
入 收	出 支	
	圓 錢 厘	
	總計	總計

旅行日記

訪 往		月 日 (曜日) 天氣 () 寒暖 ()
訪 來		
所 泊 宿		
食中		
入 收	出 支	
	圓 錢 厘	
	總計	總計

旅行日記

往						月
訪						
來						
所泊宿						支
食中						
入	收	出		支		圓
		圓	錢	圓	錢	
總計				總計		

明治卅五年十二月十五日印刷
 明治卅五年十二月三十日發行

定價金拾五錢

不許複製

著者兼發行者

的場銈之助

印刷者

淵上松太郎

大阪府中河内郡八尾村大字大信寺三十四番屋敷

大阪府南區小橋通一丁目六番屋敷

旅館 金喜 酒井久次郎

電話 架設中

大阪市南區久左衛門町參百四拾六番屋敷

「道頓堀戎橋北詰壹丁西へ入」

本館は道頓堀河岸に在りて室房多數清潔最も親切丁寧に御客様を待遇し料理は特に衛生を重んじ品質精撰専ら御客様の御健康を計るを以て主旨と致し且つ當館の位地大阪繁華の中心たる心齋橋通り及び道頓堀、千日前に近く、湊町難波の両ステーションには僅かに二三町を隔つるのみなれば、第五回博覽會御見物にも亦御便宜にして弊館は又御宿泊料等低廉に致し御携帶品等には注意深く監督仕れば陸續御來臨を待上候と

金喜旅館主 叩頭敬白

讀め！ 近刊廣告 見よ！

木原秋江 共著

大阪朝日座

新俳優

花の面影

菊判半裁

類美本

寫眞入

全一冊金貳拾錢

預約金拾錢申込十一月十日限

著者獨特の艶麗多情の筆を揮つて著者自ら各俳優を歴訪して親しく其の來歴を聞き、遺憾なく其の傳記と技藝とを畫けるものにして、俳優の眞相紙上に躍動す、其の行文の平易流麗にして詩味津々、句々血有り、節々涙ある處、識らず知らずの間に人をして巻を畢らしむ。

各傳記の初頁には挿むに鮮明なる俳優の寫眞を以てし、卷末には著者の演劇論及び十一月興業宮神樂及び妙國寺烈士切腹の筋書を概括して何人にも了解し易く、朝日座案内と題しては各茶屋場内其他の料金席料等觀客の便を計りたるもの等殆んど餘す所なし、好劇家諸君の是非愛讀すべき好著書とす。

本書収むる所の寫眞及び傳記は左の如し。

高田 實、喜多村綠郎、秋月桂太郎、岩尾慶三郎、小織桂一郎、木村周平、山岡如萍、其他數名

クリツピング式
優等紙巻煙草



五十本入 金八錢